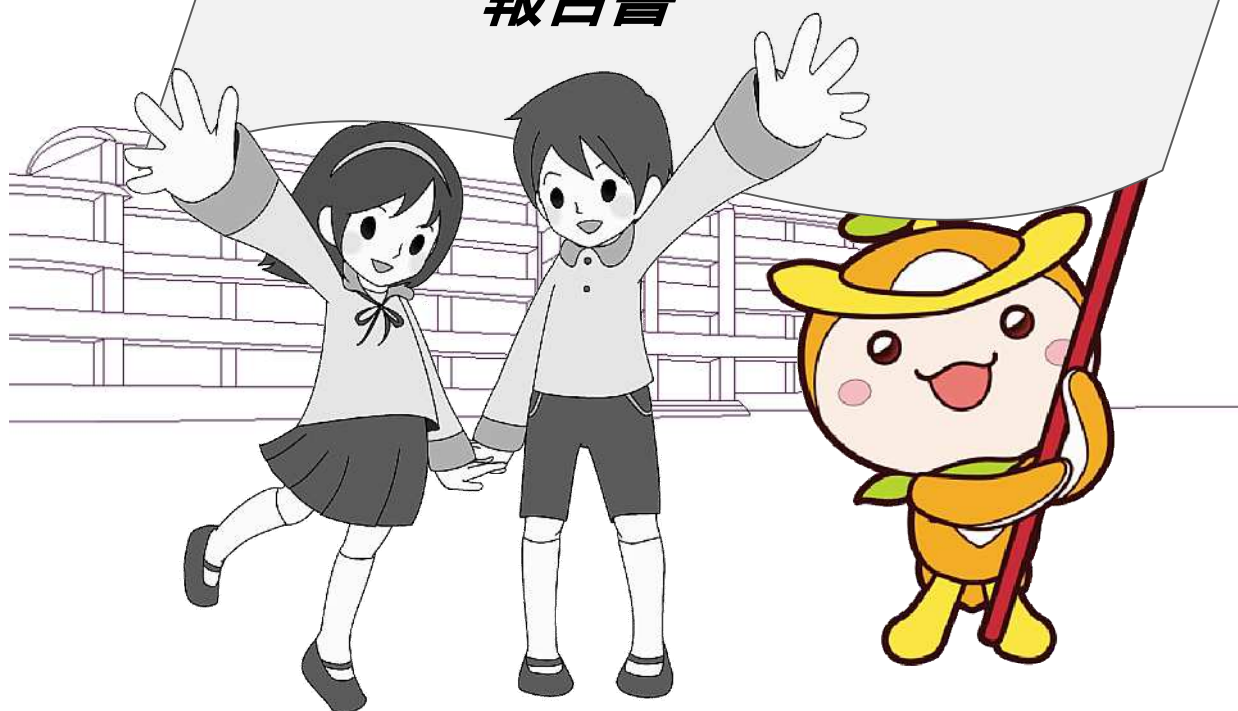


**令和6年度
特色ある学校・園づくり支援事業
報告書**



**令和7年3月
所沢市教育委員会**

目次

まえがき・・・・・・・・・・ 1

小学校

所沢小学校	2
南小学校	3
北秋津小学校	4
荒幡小学校	5
北小学校	6
清進小学校	7
明峰小学校	8
伸栄小学校	9
美原小学校	10
並木小学校	11
中央小学校	12
松井小学校	13
若松小学校	14
安松小学校	15
和田小学校	16
牛沼小学校	17
柳瀬小学校	18
東所沢小学校	19
富岡小学校	20
西富小学校	21
中富小学校	22
小手指小学校	23
上新井小学校	24
北野小学校	25
北中小学校	26
山口小学校	27
泉小学校	28
椿峰小学校	29
三ヶ島小学校	30
若狭小学校	31
林小学校	32
宮前小学校	33

中学校

所沢中学校	34
向陽中学校	35
美原中学校	36
中央中学校	37
南陵中学校	38
東中学校	39
安松中学校	40
柳瀬中学校	41
富岡中学校	42
小手指中学校	43
北野中学校	44
山口中学校	45
上山口中学校	46
三ヶ島中学校	47
狭山ヶ丘中学校	48

幼稚園

所沢第二幼稚園	49
---------	----

まえがき

所沢市では、心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児、児童、生徒の育成を目指し、平成13年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」をスタートさせ、市立幼稚園1園、小学校32校、中学校15校それぞれの特色ある学校・園づくりを支援してまいりました。

各学校、幼稚園では、特色ある学校・園づくりの宣言文を掲げ、地域の人材や環境を生かした創意工夫のある教育課程の編成・実施など、幼児、児童、生徒が生き生きとした生活を送ることができるよう教育活動を展開しております。

この報告書は、各学校・園の1年間の活動をまとめたものです。

各学校・園におかれましては、自ら点検や評価を行い、その結果を検証するとともに課題を把握した上で、教育課程や指導方法の改善に努められ、特色ある学校・園づくりを一層推進されることを願います。

あわせて、この報告書をとおして、市内47校と1園の特色ある学校・園づくりの概要や成果を広く市民の皆様に周知してまいります。

今後も、市教育委員会では、予算や施設設備、人的配置など、可能な限り、学校・園の自主性や自律性が生かせるように配慮し、特色ある学校・園づくりを一層、支援してまいります。

令和7年3月

所沢市教育委員会

所沢市立所沢小学校

家庭・地域・教職員が一丸となって、温かい心を自ら育み、
より賢く、より遅しくあろうとする児童を育成します

1 特色ある学校づくり概要

歴史と伝統を受け継ぎ、活気あふれる教育活動を展開している。

- (1) 所沢中学校区による小中連携の推進
- (2) 学校課題と解決策を明確にし、組織を活かした計画的な教育活動の推進
- (3) 地域の教育力を活かし、児童の体験活動を充実させ、温かい心を育み、より賢く、より遅しくあろうとする児童の育成
- (4) 児童が主体となって活動する環境教育の推進



「花いっぱいプロジェクト」



「4年生総合的な学習の時間」

2 具体的な活動の紹介

所沢中学校区による小中連携「所澤学校」を推進するため、中学校区三校連絡協議会を行ったり、3校合同で生徒指導研修会を実施したりするなど、日頃より児童・生徒についての情報共有、組織的な対応を行ってきた。

学校課題に対しては、運営委員会を中心に、学年主任また教科等主任をリーダーとして組織的・計画的に課題解決に取り組んだ。また、教職員の授業力向上のために、ICTを活用した授業づくりを中心に校内研究にも取り組むことができた。

生活科(2年)では、商店や図書館などの地域の施設を見学したり、総合的な学習の時間(4年)では、障害のある方から直接話を聞いたり、車いす体験をしたりして、みんなが住みよい社会について学ぶことができた。

後援会の協力により、保護者・地域と連携した活動も様々行っている。「花いっぱいプロジェクト」では、ひまわり(種)やコスモス(苗)を、教職員や子どもたちが一緒に植えたり世話をしたりすることができた。12月には、1000個のチューリップの球根を学校花壇に植えていただいた。また、「トイレぴかぴかプロジェクト」では、毎回50人以上のボラティアの方々が校舎内のトイレ掃除を行い、校内の環境整備にも協力していただいている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

子どもたちに、充実した行事や体験活動、本物に触れる体験の機会を多く設けることができた。それらの学習を通して、子どもたちの確かな学力と自己肯定感を高め、豊かな心を養うことができた。「きれいな花が咲いていてうれしい。(子どもの声)」「学校だよりから子どもと真摯に向き合っていることが伝わってくる。(保護者・地域の声)」

「ともに学び、自分をみがき、大きな夢を育む学校」

○わかった できた おもしろい実感できる授業の創造

○レジリエンスを高める指導の工夫

○環境教育・環境整備の充実

○学校・家庭・地域が一体となって取り組む 地域に根差した教育の推進

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「心豊かな子 明るい子 考える子 たくましい子」のもと、家庭や地域、学校応援団に見守られながら日々の教育活動を進めている。

特色ある学校づくりでは、令和4年度から取り組んでいる「子どものレジリエンスの育成」の3年目として、1年間を通して同じ指導者を招き、全職員が共通理解のもと研究を進められるようにした。

一人一人の子供を大切にされた多様な教育活動の推進、児童が安心して過ごせる居場所づくり、学ぶ喜びを味わわせ主体的に学ぶ授業の創造、児童が安全で心豊かに学ぶための教育環境の整備、家庭・地域との連携を深め地域とともに歩む学校の推進に取り組んだ。



「学校課題研究の授業の様子」

2 具体的な活動の紹介

「子どものレジリエンスの育成」のために、教職員の共通理解のもと、児童に自己存在感を与え、共感的人間関係を育みながら、自己決定をしていけるように以下の取組を進めた。

- (1) 指導者を招聘し全学年で研究授業を実施
- (2) 4年生の総合的な学習の時間に講師を招聘し、パラスポーツ体験による福祉学習を実施
- (3) 学校農園の整備による生活科や総合的な学習の時間の体験活動の充実
- (4) 6年生の社会科及び総合的な学習の時間に講師を招聘し、税の学習や職業学習を実施
- (5) 3年生の総合的な学習に文化庁から講師を招聘し、ワークショップを実施
- (6) 家庭科、理科、クラブに講師を招聘しての専門性の高い活動の実践
- (7) 1年生の生活科に地域の方を招き、むかし遊び体験の実施等

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

全国学力・学習状況調査の質問項目「自分にはよいところがありますか」では、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合が、R4年度→75.7%、R5年度→86.6%、R6年度→90.1%と3年連続で上昇した。

地域の方との交流では、「来年度もぜひ子どもたちと関わりたい」という声があった。

子供を大切にする学校 北秋津小

～地域・家庭・学校が一体となって創る「笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校」～

1 特色ある学校づくり概要

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が一体となって創る『笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校』～」を目指す学校像とし、本市教育の基本理念「3つの宝を大きく育てる」を具現化し、子供たち、保護者・地域、教職員が誇れる魅力ある学校づくりを推進してきた。「ふるさと所沢を愛する心」については、人とのつながりを大切にして、地域の教育資源を活用し、地域からも学ぶ子供たちを育成した。「未来を拓く知恵」については、地域人材を活用した体験活動を行い、自ら考える態度や豊かな感性を育成するとともに、国語（書くこと）の学校研究により、児童の思考力・判断力・表現力を育成してきた。「心身のたくましさ」については、体力向上の取組、基本的な生活習慣づくり、体験活動の場等の環境を整備しつつ、あきらめない心や運動好きな児童を育成してきた。



「緑のカーテン用のヘチマの苗植え」

2 具体的な活動の紹介

本校では、「笑顔であいさつ北秋津」「あいさつは北秋津の宝物」という合言葉のもと、毎日の登下校をはじめ、大勢の地域の方に見守りや教育活動へのご協力をいただいている。「学校農園」や「全校俳句作り」「低学年での外国語活動」「福祉学習」では、地域の方を外部講師にお招きしご指導いただいた。どの活動も児童にとって貴重な学びの場になった。昨年度に引き続き「銀杏プロジェクト」と銘打った活動では、児童が拾い集めた銀杏を加工し、無人販売所で販売した。このプロジェクトも地域の方に大変お世話になった。校内には、地域の方が生けてくださったお花、掲示物、絵画や写真も飾られており、地域と一体となった教育環境が実現できている。この他にも、北秋津町内体育祭や北秋津町内文化祭では、学校と地域とのつながりを深めることができた。また、植木の剪定、トイレ清掃や運動会・音楽会の運営では、PTAの保護者の方にご協力をいただいた。学力向上については、TGS構想に基づいて、ICTを活用した授業改善を促進してきた。さらに、国語（書くこと）の学校研究により、児童が自分の考えや思いを表現したり、友達の考えを尊重したりしながら思考力・判断力・表現力を身に付けてきている。学習環境整備としては、昇降口の図書コーナー、花壇、学校農園の整備・維持や充実を図った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「子供を大切にする学校～地域・家庭・学校が一体となって創る『笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校』～」は、子供・保護者・地域にも浸透してきている。子供たちには、「ちょうせんしょう。ときどきしっぱいもしょう。そこからまなんでせいちょうしょう。」と伝えている。「幸せな子供時代」を子供たちに、を合言葉に、地域総ぐるみで「子供たちが大切にされている」実感がもてるように日々の教育活動を充実させてきた。

＜地域の方の声＞

子どもたちの姿や日頃の学習の成果が伝わる運動会・音楽会等を今後も地域の私たちに披露してください。素晴らしい姿にパワーをいただいています。

＜保護者の声＞

いろいろな体験学習や行事を通して子供の成長を感じた一年でした！来年度も子供の様子を見られる機会が沢山あればいいと思います。

植樹や町探検など、以前よりも保護者が学校活動に参加できる機会が増えたように思う。今後も継続していただきたいです。

子供たちの心のエネルギーを満たし、
「ひとみキラリ、笑顔キラリ、汗キラリ」3つのキラリが輝く、
勇気づけに満ちた教育（共育）活動を学校、家庭、地域で推進します

1 特色ある学校づくり概要

本校は豊かな自然環境に恵まれ、学校に隣接する荒幡富士では郷土史を学ぶことができ、いきものふれあいの里センターでは自然体験や生き物観察も行うこともできる。また、昨年度から校内のビオトープ再生活動も行われている。地域住民の方々や保護者は、地域への愛着や学校への思いが強く、学校に大変好意的で、環境整備や教育活動にも積極的に協力してくださる。これら地域の教育資源や地域人材を活用し、学習を進めてきた。他者を意識し進んで関わるための「あいさつ」の取組に力を入れたり、人との関わりの中でコミュニケーション能力を高めるために、体験的な学習や3人組での学び合う活動を多く取り入れたり、他者や集団から尊重される経験を積むために、集会活動やグループエンカウンターを意図的に学級や学年で実施したりしてきた。そして、子どもが嬉々として登校し、充実した活動をし、満足して下校する学校を創り上げている。



「ビオトープ再生プロジェクト」

2 具体的な活動の紹介

○保護者や地域の方々、学校応援団等の連携を推進・強化し、学習活動や学校行事の中での協力を依頼し、ボランティア活動を通して本校の教育活動の方向性を周知し、支援の充実を図った。

○「地域の学校」として子供たちを育成するために、ARARE（あらはたりサイクル）による牛乳パックや新聞紙、アルミ缶回収、図書ボランティアによる図書室整備等を行いながら、地域に根ざした共同体としての学校づくりを行うことができた。また、その様子について

はホームページや教職員が児童に周知するなどし、地域の方々への感謝の念を育成し、登下校の際の見守りの方々へあいさつや声掛けにつながるように指導した。

○地域や各機関のゲストティーチャーによる学習サポートを推進した。「荒幡富士」「いきものふれあいの里センター」での学習では、第二幼稚園の園児や地域の方々と一緒に活動したり、「ボッチャ体験」「書きぞめ指導」などはゲストティーチャーから本格的な指導を受けることができたり、子供たちの学習意欲の喚起や学習支援に大いに役立っていた。



「児童会主催のあいさつ運動」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

3つのキラリを意識した意図的・計画的な指導の継続により、子供たちの他者に対する意識、学級の雰囲気、学習への意欲が高まってきて、一人一人の笑顔がキラリ輝く元気な学校となってきた。

地域の方々からは「子供たちからのお礼や挨拶の言葉がうれしい。」、保護者からは「帰宅した子供が、今日の体験が楽しかったと話していた。」、子供からは「地域の方に色々教えてもらって楽しかった。」「もう一度やってみたい。」など肯定的な声を多く聞くことができる。

**「人のために 子供も 教職員も 皆、笑顔で
尊敬し合い（愛） 協力し合い（愛） 学び合う（愛）
安全・安心な学校」**

子供も教職員も家庭も地域も「北小が 大好き」と思える北小学校を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

「はじめに子供ありき」を原点として、『子供たちが何を考え、何を必要としていて、どう進めていくべきか、常に「子供にとってどうか」という観点に立ち返り、とるべき手立てを判断していく。』という目標を掲げ、目標の具現化に向けて、①「生きる力」の育成 ②相互理解（教員・児童・保護者・地域）に基づく開かれた学校づくり の2点に絞って、教職員だけでなく保護者や地域等とも連携を図りながら組織的かつ継続的な学校づくりを推進した。



「授業参観での学習の様子」

2 具体的な活動の紹介

①「生きる力」の育成…落ち着いて張りのある生活

児童一人一人の「生きる力」を育成するために、確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせるよう、各教科での授業づくりや行事等を含む学校生活の充実に努めた。また、生徒指導・教育相談・特別支援教育の機能を活かした学級・学年経営を図ることで、居甲斐を感じられ、落ち着いて張りのある生活ができるように意図的な指導を行った。

生徒指導委員会等を定期的実施することで学級・学年の様子を全体で共有し、特別に支援が必要な児童を把握している。教育相談・ケース会議を生徒指導とは異なる視点で実施し、児童を多角的に見ることで「確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせる」ことにつなげることができた。

併せて、校務用パソコンを中心としたコンピュータネットワークを活用して、効率よく情報共有ができるよう工夫して取組の充実に努めた。

②相互理解（教員・児童・保護者・地域）に基づく開かれた学校づくり

学校（教職員）と家庭（保護者）や地域（学校評議員・民生児童委員・サポートスタッフ等）が相互に連携し、児童の健全育成に努めるとともに、学校からの情報発信や情報収集に努め、地域の誇りとなる学校づくりを行った。積極的に地域の人材を活用することを目指して様々な方向からアプローチをすることができた。昨年度より再スタートをさせたサポートスタッフの取組については、少しずつ人数が増えてきて、活動も軌道に乗りつつある。今後は、継続的にご協力いただけるスタッフの確保・拡充と持続可能な活動の内容や新たな取組の検討を進めていきたいと考えている。

これからも、コロナ禍によって得られた知見をもとに、子供たちにとって本当に必要なことを検討し、限られたリソースを無駄なく活用すべく優先すべきことを優先的に実行しながら、令和の現在に合った開かれた学校を実現していく。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度より国語科を中心として「想像力を巡らせ、自ら考え表現できる児童の育成」を研究主題として校内研修に取り組み、豊かな表現力の礎となる「読解力」の向上を目指して研究を行った。所沢市教育委員会の指導主事を指導者としてお招きし、授業研究発表会を行うことができた。

また、学校ファームでの農業体験活動や花壇の植栽活動等を含む環境整備活動について、保護者を含むサポートスタッフの協力も得て、充実した活動を行うことができたことと好評であった。

「夢・笑顔・元気があふれる学校」を目指します

— 保護者・地域と連携して地域ぐるみで子どもを育てます —

1 特色ある学校づくり概要

- (1) Chromebook や ICT 機器を活用して、今年度研究を行う体育では、「運動時間 30 分！楽しく活動 児童の授業づくり」の研究テーマをもとに、主体的に取り組む児童、たくさん運動する児童、楽しく活動する児童の育成を目指す。
- (2) 読み聞かせ（1～3 年中心）の実施や図書室の環境整備、図書の修繕等を推進し、読書活動を充実させる。
- (3) 学校応援団やほうかごところ等と連携し、様々な活動を通して児童を育てる。
- (4) 幼保小中高と連携し相互のキャリア教育の推進を図る。
- (5) 環境教育（ビオトープ）を推進し環境の充実を図る。



「ICT 機器を活用したマット運動（3 年）」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 校内研究 体育「運動時間 30 分！楽しく活動 児童の授業づくり」に関して
今年度の研究テーマをもとに、Chromebook や ICT 機器を有効に使い、児童が主体的に取り組み、たくさん運動し楽しく活動できる授業を実践した。Chromebook で撮影した動画を子どもたちで見合い、どのポイントを意識すれば上達できるのか積極的に話し合い、活動を充実させることができた。
- (2) 読書活動の充実に関して
蔵書のデジタル管理化を進め、読書活動・環境の整備・本の修繕等の活動を行った。学校司書・後援会と連携し、図書の購入を前期（7 月）・後期（12 月）の 2 回に分けて行ったことで、年間を通して新書を充実させ、児童の読書への関心を高めた。
- (3) 学校応援団やほうかごところとの連携に関して
学校応援団の組織を活かし、各分野のリーダーを中心に児童の活動が充実するよう計画・実践した。安全にほうかごところの事業が進められるようにスタッフリーダーとこまめに連絡を取り合い、協力し合った。
- (4) 幼保小中高との連携に関して
所沢西高校の交流会を 11 月に、中学校 2 校（向陽中学校・所沢中学校）の職場体験を 1 月に実施した。高校生は 1 年生から 3 年生まで 38 名の生徒が参加し、全学年・学級に 2～3 名ずつ入ってもらい授業のサポートを経験してもらった。地域の幼稚園・保育園とは、入学に向け交流会を行った。
- (5) 環境教育（ビオトープ）の充実と推進に関して
ビオトープを活用し自然と触れ合うことで、子どもたちの生きる力の育成を図っている。第 4 学年の総合的な学習の時間では、おおたかの森トラスト代表足立さんを講師として招き、虫や鳥、草木等の生態系について学ぶ学習を展開した。

3 成果及び児童・保護者・地域の声等

所沢西高校との交流会では、年の近いお兄さんお姉さんと触れ合うことで、子どもたちが普段より生き生きとした姿を見せていた。生徒も自身のキャリアに大きく影響する活動だったと振り返っていた。学校応援団の活動では保護者の方々が積極的にご協力していただいたことで、学習環境が整い、スムーズに活動することができた。図書の読み聞かせや家庭科ボランティアなど、活動にご協力いただいた保護者からは、子どもたちの様子を見ることができて良かった、楽しかったなどの声をいただいた。

学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくり

～すべての教育活動は子どもたちのために～
保護者や地域に愛され、信頼され、誇れる学校を創造する
時代の要請に対応した特色ある学校づくりを進める
児童の発達段階や実態に合った特色ある教育活動を展開する
組織的、機能的、効果的な学校運営を推進する

1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標、「本気」「勇氣」「元気」の具現化のため、学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくりに取り組んでいる。今年度は、主に、教育環境の整備充実と校内研修【誰もが「わかった」「できた」を実感できる授業作り～学級経営を核とした授業改善（算数科を通して）～】に取り組んだ。

2 具体的な活動の紹介

① 学校ファーム「ダッシュファーム」等の教育環境の整備充実

本校の中庭には、農園が広がっており、栽培活動が盛んである。2～6年生・特別支援学級（かがやき学級）が農園を活用し、白菜、大根、にんじん、小松菜、サツマイモ等を育てている。特別支援学級では、販売学習を行うことができ、勤労する意欲や豊かな心の育成につながった。大根や里芋は、学校給食の食材として活用し、給食校内放送で紹介を行った。



「ダッシュファーム」

② 校内研修による授業改善

校内研修では、【「わかった」「できた」を実感できる授業づくり～学級経営を核とした授業改善（算数科）～】を目指して研究に取り組んだ。所澤学校生徒指導研修会での全員授業公開、学年ブロック授業研究会発表やいじめ未然防止プログラムの授業にも取り組んだ。今後は、さらに、ICTを効果的に活用し、「授業規律」「自己決定の場」「児童理解」を視点に、授業改善を図っていく。



「ICT を効果的に
利用した学習（算数）」

③ 体力の向上

運動する喜びが味わえる体育科授業実践は、昨年度から継続し、子供たちの体力向上に努めている。年間を通して、朝マラソン、運動チャレンジを実施し、季節限定での取組として、業間マラソン、長縄跳びを実施している。

体育の授業では、毎時間の振り返り活動を位置づけて行い、自分の運動量の確保に努めた。



体育朝会：「マラソン」

3 成果及び子供・保護者・地域の声

学校ファームの農園活動では、計画から始まり、種まき、栽培、収穫の活動を体験し、また、学習ボランティアとして、地域の方をお迎えして野菜を植え、収穫することができた。保護者には、授業参観・懇談会、個人面談を通して、子供たちの活動を見ていただくことができた。運動会、音楽発表会等の学校行事等を通し、たくさんの保護者に学習の成果等を参観していただいた。

所沢市立伸栄小学校

本校は「子どもが伸びて、地域が栄える学校」をめざし、
家庭・地域との協育で子どもが育つ学校づくりを推進します

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「**や**さしく **か**しこく **こ**よい子」

「家庭・地域との協育で子どもが育つ伸栄小」

目指す学校像のキーワードを

「**し**ん**ぞ**ん**ぞ**ん **え**がお **い**きいき ESD」で示し、

- ・子どもが落ちついて学ぶ学校
- ・保護者や地域を信頼し、信頼される学校
- ・教職員が学び合う学校
- ・清潔で、教育的に豊かな環境のある学校
- ・ESD を推進する学校 としている。

目指す子ども像は「楽しく学校に通える児童
明るい声で心のこもったあいさつ よく考え
て、よく食べ、よく遊ぶ子」としている。



「花壇ボランティアさんが、正門正面の花壇を中心に、年
3回花壇の手入れをしてくれている。今年度は、
学校ファームの整備にも協力してくれている。」

2 具体的な活動の紹介

今年度は、昨年度から改革を進めてきた PTA 及び学校応援団の大きな協力を得て、様々な学校行事を保護者や地域の方々に公開したり、日々の教育活動を充実させたりしてきた。

学校応援団には60名以上の登録があり、花壇ボランティア（写真参照）のほかに、学校ファーム、リサイクル、図書整備、読み聞かせ、家庭科のシソや調理、書き初め指導、町探検や社会科見学の引率、学年行事の受付や会場設営、作品掲示等、様々な場面で保護者や地域の方と一緒に学校づくりを行ってきた。また、伸栄小グランドデザインの中にも「ESD（持続可能な開発のための教育）を推進する学校」と明記し、ESDの視点を意識した教育活動を行ってきた。こうしたESDを中心とした様々な体験活動の充実で、潤いのある豊かな学校づくりを推進した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

PTA や学校応援団、地域の方々の理解・協力のもと、今年度はさらに公開の機会を増やし、教育活動への多くの支援をいただきながら、開かれた学校づくりを推進してきた。特に授業参観や運動会、音楽会などの全校的な学校行事をはじめ、学年行事や校外行事等も実施し、保護者の方から「より身近に子どもたちの生き生きとした楽しそうな姿がたくさん見られました。」などと多くの感謝や励ましの言葉をいただいた。子どもたちの笑顔や頑張る姿が大きな成果となった。

生き生きと学び高め合う美しい学校づくり

— 自ら学び 心豊かでたくましい子の育成 —

1 特色ある学校づくり概要

本校は全教職員の経営参画のもと学校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい子の育成 考える子 思いやりのある子 元気な子」の具現化を目指し、特色ある学校づくりの指針である「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」を推進している。そのためには、教育活動の中心である授業の充実を図っていくことが重要であると考え。本校では、学習指導要領が目指す知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、常に授業の改善を図り、「わかる喜び」「できた喜び」を味わわせることのできる質の高い授業実践に取り組んでいる。



「開校50周年記念式典」

2 具体的な活動の紹介

児童一人一人の主体的な授業参加を促し、各教科・領域の学習内容とともにコミュニケーション能力・問題解決能力・情報活用能力など未来を拓く学びの推進に努めてきた。教育課程の実施：「わかる楽しさを実感し、子どもたちが主体的に学べる授業づくり～ユニバーサルデザインを生かした算数指導～」をテーマとした校内研修の取組では、指導者を招聘し全教員が研究授業を行い、教師の資質の向上を図るとともに、児童の学力向上に取り組んできた。また、少人数指導や習熟度別指導、高学年では交換授業を導入して、個に応じた指導の充実を図った。体験活動：生活科のまち探検（1・2年）や能楽体験（6年）社会福祉協議会の方による出前授業（5年）など、各学年で普通の授業では体験できない活動を実施することができた。地域との連携：今年度、開校50周年を迎え、愛校会や地域の方の協力を得ながら様々な行事を実施することができた。また、図書ボランティアによる定期的な読み聞かせ（月1回）や見守りボランティアによる登下校の見守りなど、地域の教育力を生かした取組を実施している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

令和6年度の「教育に関するアンケート」での「子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように取り組んでいる」や「わかりやすく授業を教えている」について9割以上の保護者が肯定的に捉え、保護者の、学校生活や授業に対する関心が高いことが窺えた。今後も「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となった「美原小学校の学び」を推進していく。

「子供が主役の学校を目指す」

～教職員一人一人が絶えず情熱と使命感をもって職責の遂行に努める～

1 特色ある学校づくり概要

本校では、豊かな心を育むために、全校で大根を育てたり、低学年がサツマイモを育てたりする学校農園の活動に力を入れている。

また教職員数の少ない本校にとって重要な特色の一つとして、保護者ボランティア活動があげられる。安全・学校整備・掲示・読み語り・緑化・図書整理・児童預かり・家庭教育学級運営という多岐にわたる協力をいただいている。さらに、行事等の補助を募集し、保護者の協力のもとで安全・安心な学校生活が送れている。



焼き芋の様子

2 具体的な活動の紹介

本校は道徳教育の重点内容項目を「生命の尊さ」とし、全教育活動を通じて児童に働きかけている。学校農園においても、小さい種が大きな大根に育つ過程を体験し、学びにつなげた。栽培した大根を、全児童が自らの手で収穫する体験を行った。「家に持ち帰って料理に使ってもらい、皆さんが一生懸命育てた命をいただくという意味で『いただきます』と言って食べましょう。」という放送委員の声掛けに応じるように、大根を大切に持ち帰る児童の様子は印象的である。

さらに1・2年生は生活科の学習の一環として、学校農園でサツマイモを育てた。12月、保護者ボランティアを募り新聞紙とアルミホイルで芋をくるみ、焼き芋の準備をした。そして、落ち葉掃きボランティアの保護者が半月近くかけて集めた落ち葉を燃やして、焼き芋を作って食べた。同時開催で、並木の会役員が豚汁を振る舞い、日頃からお世話になっているボランティアの方々への感謝を伝えることができた。隣接する保育園にも焼き芋を届け、地域の輪をつくる活動となっている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本校の学区には触れ合える自然が少なく、上記のような体験活動の意味が大きいと考えている。総合的な学習の時間の計画を見直し、より児童主体の取組にすること。また1～6年生の縦割りグループや、隣接する保育園や中学校と連携すること。これらを通し、本取組をさらに発展させていきたい。

保護者や地域の中には、学校が御膳立てした取組でなく、子供と関わり合いながら一緒に創り上げていく活動を望む声がある。また、ボランティア活動においても学校を支えるという側面よりも、子供たちの様子を近くで見られることに喜びの声がある。来年度、本校はコミュニティスクールとなるため、主役である子供を中心に、保護者・地域の方々との「共創」という姿勢で特色ある学校をつくっていききたい。

家庭・地域と共に「子供たちの未来を拓く力を育てる学校づくり」を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校では、目指す学校像に「～昨日より今日、今日より明日へ～大人も子供も『学びと成長』を大切にするチーム中央小」を掲げ、家庭・地域と共に教職員の総力を結集して日々の教育活動に励んでいる。そして、子供たちのために教職員は、切磋琢磨し、家庭・地域が信頼を寄せる学校づくりを目指している。地域の方々には、児童の学習支援、安全、環境など様々な支援をいただいている。今年度も学校応援団コーディネーターと共に本校の教育活動に関わる全ての方々の自己肯定感が高まるよう地域と共に歩む学校となるよう努めている。



「里芋の植え付けの様子」

2 具体的な活動の紹介

【地域の人材や施設を活用した学習の充実】

学校応援団の皆様の協力のもと、全学級において、毎週水曜日の朝の時間を利用した読み聞かせや1年間を通した農作物の栽培体験を行っている。今年度は、3年生が所沢市の名産である「里芋」を題材にした単元を新たに設定し、栽培を行った。子供たちは学校応援団のサポートのもと土や畝づくり、マルチ設置から行い、一人一株ずつ、植え付けを行った。自分の名前が書かれた株に毎日水やりをしたり、雑草取りをしたりと主体的に栽培活動にかかわることができた。途中で株が大きく育つように土寄せの作業を行ったことにより、とても大きな株に成長した。収穫は大変な作業となったが豊作となり、協力いただいている多くの学校応援団の皆さんにも感謝の気持ちを込めて収穫した里芋をプレゼントすることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

里芋栽培を行った3年生児童は、「自分が育てた里芋がとても大きくなって驚いた」「想像した以上にたくさん収穫できてうれしかった」等、日々の教室の授業では知ることができないことを、体験を通して学ぶことができた。協力いただいた地域の方からは、「マルチの設置から取り組んだこともあり、子供たちが自発的に水やりや雑草取りを行っていた。楽しそうに世話をする子供たちの姿を見て、協力した甲斐があった。子供たちから元気をもらった。」という感想をいただいている。本校の「特色ある学校づくり」の重点である体験活動を通して、学校、家庭、地域の連携をより強固なものとなっている。

ふるさとにします みんなの学校 松井

— 笑顔があふれ 花が咲き 歌声ひびく 松井小 —
汗を流して、たくさん学んで、たくさん遊んだところが、子どもにとって「ふるさと」になります。学校運営協議会を中心にPTA、学校後援会、学校開放運営委員会と連携して、子どもの「ふるさと」になるよう、「地域とともにある学校づくりを進めています。」

1 特色ある学校づくり概要

「ふるさとにします みんなの学校 松井」を目指し、学校運営協議会制度を中心に、学校開放運営委員会、学校応援団とともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、連携・協働を図りながら子どもたちの豊かな成長を支えていく。

特色のある施設を活かし、多様な教育活動を推進する中で、学ぶ意欲と自信を育て、確かな学力を育成する。今年度、開校 150 周年を迎え、周年行事に向けての取組に加え、児童発のアイデアを取り入れた教育活動を進めていく。



松井小マスコットキャラクター

「まっぴい」

2 具体的な活動の紹介

「トコロン学力向上プロジェクト」で示された45分の流れを基本とし、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図るとともに、自己肯定感を高める支援・指導を行っている。今年度は「特別の教科」道徳をとおして、大学教授を指導者として招聘し、児童の自己肯定感を高める授業づくりを行った。また、本校は、ICTを積極的に活用している。具体的には、各教科の授業における話し合い活動において児童の考えを集約し、分類することや学級活動において教師及び児童の学級会準備に対する負担軽減のため、一人一台端末を活用した話し合い活動を展開している。

コミュニティ・スクールのモデル校2年目として、学校・家庭・地域で学校経営方針の承認や学校の諸課題について熟議を図っている。今年度、夏季休業中に、校内研修の時間を使って、学校、家庭、地域で不登校支援研修を行った。また「令和6年度松井小学校 アクションプラン」を策定し、学校・家庭・地域それぞれができる具体的な行動計画を考案している。その中の1つとして現在「生活科」と「総合的な学習の時間」を「まっぴい学」とし、学校運営協議会の教育課程担当チームとともに次年度の年間指導計画作成を進めている。

150周年の取組として、特別活動部と連携した「M(Matui)H(Happy)P(Proiect)」を立ち上げ、ポスターやメッセージカードづくりなど児童発のアイデアを全校で展開し、150周年のお祝いをする事ができた。取組成果を2月の学校運営協議会で発表する予定である。

体験活動については、昨年度も実施した「サツマイモ、サトイモの栽培や収穫（ひまわり学級、1年、3年）」、「租税教室（6年）」に加え、「昔遊び（1年生）」、「焼きだんご（3年生）」、「うどんづくり（4年生）」を実施した。また、総合的な学習の時間において、「セブンイレブン（4年：SDGsの視点での商品開発）」、「古代から教室へのメッセージ（6年：社会）」、「地域包括支援センター（5年：高齢者福祉）」民間企業や福祉機関と連携した授業を展開した。中学校区内の学校間との連携や交流も充実し、共に役割を担い、子どもを育成する「地域とともにある学校づくり」を目指した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

後援会をはじめ、学校応援団等による様々な教育支援を受け、「地域の子どもは地域で育てる」地域立の学校として、子どもたちがこの松井地区で生活し、学ぶことを誇りに感じる日が来ることを信じている。今後も社会に開かれた教育課程の実施に加え、子どもも大人も学び合う教育体制を整え「全ては子どもたちのために」教育活動を推進していく。

- 「子どもたちから、何気なく声をかけてもらい、元気をいただいている」(パトロール隊の方より)
- 「昨年度と比べ挨拶をする子が増えている気がします。」(保護者より)
- 「まっぴいというキャラクターが誕生したし、六年生最後の小学校生活だから松井小学校が大好きと言いつけるほど大好きです。」(6年女子より)

地域とともに歩む学校づくり

— 「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成を目指して —

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」（「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成）を学校教育目標として掲げている。

また、特色ある学校づくり宣言は「地域とともに歩む学校づくり」であり、「地域の学校」として、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりと学校教育目標の具現化に向け、「ともに学び、実践する学校」を合言葉に、以下の教育活動に取り組んでいる。

◇「生きる力」を育む教育の推進

◇学校・地域の組織や地域の教育資源や人的資源を生かした教育活動の推進

◇安全・安心な学校・地域づくりの推進



「重松流お囃子体験」



「稲刈り体験」

2 具体的な活動の紹介

- ・学年ごとに、植物や作物の種類を決め、学校の花壇や畑を活用して植物や作物の植栽を行った。作物を育てる過程で、水やり、除草、収穫などを通じて、生命を大切にすることを学んだ。
- ・6月と11月に地域連絡協議会を開催するなど、自治会長や、地域の見守り隊の方々と共通理解を図り、日頃から児童の登下校時の安全等について、連携、協力し合あうことができた。
- ・5年生の総合的な学習の時間に、稲の栽培を行った。田植え、収穫の際には地域の方を講師としてお招きし実際に指導をしていただいた。実際に体験をすることで、普段食べている米を育てるためにはたくさんの仕組みや労力があることを実感し、児童の学習世界が広がっていった。
- ・4年生の総合的な学習の一環として重松流祭囃子新井町囃子連の方をお招きし、体験授業を行った。
- ・愛校会から提供していただいた花の苗を、地域の方や児童が花壇に植栽し、敷地内に花がある環境を構築することができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・田植えや作物・花苗の植栽、世話などの実体験を通して、深い学びにつながる授業を行うことができた。児童は、作物や植物に愛着を持ち、自然や食物を大切にする意識が芽生えた。
- ・「お囃子体験」や地域の方との交流などを通じて、「地域の生活や文化を支えることの大切さを実感することができた。」や「見守り隊など地域に支えられ、ありがたい。」という声をいただいた。

地域とともに歩み、自信を持って誇れる『ふるさと』

安松小学校～児童が主役となる学校づくり～

1 特色ある学校づくり概要

地域とともに歩み、自信を持って誇れる『ふるさと』
安松小学校は「児童が主役となる学校づくり」をテーマとして、「地域の人々に学ぶ」「地域の自然に学ぶ」「地域の文化に学ぶ」を特色ある学校づくりの基本理念とし児童、保護者、地域の実態に合わせた体験活動を通して「生きる力」の育成を図った。



校内音楽会にて、音楽ボランティア
「きらら」の合唱披露

2 具体的な活動の紹介

(1) 学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置

本校は今年度より学校運営協議会を設置した。学力向上・体力向上について、地域の人材活用について等の熟議をしている。今年度は地域の方のご協力のもと、総合的な学習の時間に福祉体験、アマチュア無線体験の授業をした。また社会科の時間には地元の農家さんに来ていただき、夏野菜と冬野菜作りの違いや仕事の楽しさ、大変さなどについてお話いただく機会を得た。地域の行事にも児童は積極的に参加している。みこし祭りは4年ぶりの開催であったが、みこしをかつぎ、3・4年生はソーラン節を披露した。地域連携が深まった1年であった。

(2) 「特別活動」の学校研究を通して

本校は特別活動の研究2年目である。本年度も所沢市の研修とタイアップし、年に3回、國學院大學の杉田洋先生に学級会の授業を見ていただき、今後の課題等を含め学びの多い研修の機会をいただいた。6年生は今年度、学級会での話し合いを通して、学年でお揃いのTシャツを作成した。行事のたびに皆で着用し絆を深めている。このように児童が主体的に取り組む特別活動の教育実践が昨年度より充実してきた。

(3) 自然体験活動の実施

今年度もピオトープ活動を継続した。地域の指導者に来ていただき、月に一度、学年単位で自然観察や環境整備活動を行うなど環境教育を進めている。ピオトープ活動の日は活動学年の保護者、学校応援団のピオトープボランティアにもお声がけし、来校していただいて児童と協働している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<子供の声> 学校行事、地域行事がとても楽しかった。地域の行事は夏祭り、運動会、みこしまつりがあって全部参加した。地域の人に「踊りが上手だったよ」と言ってもらってうれしかった。

「明日も来たくなる めくもりのある和田小 ～子どもが幸せになれる学校づくり～」を目指します

1 特色ある学校づくり概要

(1) 「認め、寄り添う教育」の推進

- ①思考を深める授業の充実(学力向上)
- ②豊かな心と人間関係の育成 《規律ある態度》
- ③たくましい身体の育成 《体力向上》
- ④学びに向かう力の基盤となる体験学習の推進
- ⑤保護者・地域との「共育体制」の推進



「ICTを活用した授業の実践」

(2) 具体的な方策

- ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のための ICT を効果的に活用した学習活動の推進
- ②豊かな心と人間関係の育成のための道徳教育の充実や集団生活における約束の徹底
- ③たくましい身体の育成を図るため、共に活動する喜びが味わえる体育授業の充実
- ④考える力の基盤となる体験活動の推進や社会科見学、校外学習の実施

2 具体的な活動の紹介

(1) 思考を深める授業の充実

- ①児童のよいところを称賛し、学習のねらいを具体的に提示し、児童の言葉でまとめる教科指導
- ②少人数指導やTTによる学習形態の工夫及び学習支援員等の計画的な配置
- ③ICTを効果的に活用した学習活動 ④認知能力の向上、非認知能力の育成、言語活動の充実

(2) 豊かな心と人間関係の育成

- ①なかよしアンケートの実施と情報の共有 ②児童会を中心とした毎朝のあいさつ運動
- ③心のエネルギープロジェクトの推進 ④特別活動、縦割り行事の工夫と実施
- ⑤学習規律の徹底 ⑥児童に関する情報共有、共通行動による指導体制

(3) たくましい身体の育成

- ①活動内容や展開を工夫し、ICTを効果的に活用した体育授業・朝会や集会の工夫と実施
- ②十分な運動量を確保した授業の充実、サーキットトレーニングの推進
- ③心の健康と体力維持のための、アウトドアデイを中心とした外遊びの励行
- ④家庭・地域との連携

(4) 体験活動の推進

- ①実際の体験と疑似体験等を取り入れた体験活動計画の見直し
- ②ICTを効果的に活用した体験活動の実施
- ③委員会活動等の日常活動の充実と、活動内容の周知による体験への意欲の向上
- ④点字体験、白杖体験、ゴールボール等の福祉学習の実施

(5) ボランティアの活用

- ①学習での見守り活動 ②校地内外の緑化活動 ③登下校中の見守り活動

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域や保護者には、授業参観・懇談会、学校公開週間や運動会、校内音楽会等の行事での参観の機会を設けている。他にも、毎月の学校だよりでの行事案内やホームページで本校の取り組みについて紹介をしたことで、多くの方々にご来校いただいた。保護者からは、「子どもたちにとっても、より良い学校環境となることを願っています。できることは協力したいと思います。」とのご意見も頂いている。目指す学校像を具現化し、特色ある学校づくりのため、保護者の皆様から、ご協力をいただきながら学校と家庭、地域と連携を深め、協働して学校教育活動を進めることができたと考えている。

笑顔いっぱい、夢いっぱい、わくわく牛沼小学校！

— 学校、家庭、地域の連携を深め、元気で明るい学校を目指します！ —

1 特色ある学校づくり概要

本校は「花と緑と豊かな心」を校訓と掲げ、学校・保護者・地域の信頼関係を培い、三者の連携を図りながら子ども達の豊かな感性と生きる力を育む取り組みを実践している。

- ・特別支援教育の視点を生かした授業づくりを実施し、個に応じた指導の推進（学習・生徒指導）
- ・児童の非認知能力を伸ばす取り組み（心の教育の充実）
- ・ガイダンスとカウンセリングの機能の充実（教育相談）
- ・地域に根差した保護者・地域に信頼される開かれた学校（情報発信、地域人材の活用）



さつまいも収穫体験（2年生）

2 具体的な活動の紹介

- （１）地域とのつながりを大切にし、常に感謝の心を持って保護者・地域と交流をしている。児童の体験活動では、主に低学年での芋の苗植えや収穫体験、昔遊びに触れる体験、特別支援学級の和太鼓練習など多岐に渡った活動を実施している。その全ての講師が学区内に在住している方々であり、子供達に温かい指導を実施していただいている。また、体験活動や授業の補助だけでなく、学校の樹木の剪定や花壇の整備、池の鯉の手配など、学校の環境整備についても多大なるご協力をいただいている。地域の行事には管理職だけでなく担任等の教職員も積極的に顔を出している。更に学校だよりを回覧板で回していただき地域全体に学校の取組を周知したり、ホームページを毎日更新しながら学校の様子を発信したりと、情報発信も欠かさず行うなど、学校と地域が一丸となるべく交流を図っている。
- （２）非認知能力を伸ばすための指導の１つとして、教職員は「褒め方」を工夫するようにしている。ゴールとステップだけでなく、プロセスを大事にすることである。児童になぜ良い結果が出たのか、どのような工夫をしたのか等を常に投げかけ、その過程に着目しながら努力点を褒める。これを繰り返すことにより、児童はどういう行動や考えが良い結果につながるのかを意識することができる。より良い成功体験を経験させ、次の課題や取組も考えて行動することを日々積み上げさせている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

教職員が地域の行事に参加をすることは、自治会長をはじめ地域の方々や保護者から多くの感謝の言葉をいただいている。牛沼小学校では、学校と地域が一体となり、多くの目と手と心で児童を育てていく基盤ができている。

地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校

1 特色ある学校づくり概要

本校は、所沢市の東端に位置し広い農村地帯と区画整理された住宅街を学区内にもつ。保護者や地域住民には本校の卒業生も多く、学校の教育活動に進んで協力をしてくださる地域性がある。今年度も学校経営方針のもと「地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校」の実現をめざし、地域学習をとおり、地域と共に歩み、地域に愛される教育活動を実践した。



「2年校区探検（サツマイモ栽培発祥の地）」

2 具体的な活動の紹介

（1）体験的な学習の充実

2年生では、サツマイモ栽培発祥の地・オリンピック記念碑・南永井の八幡神社等の地域めぐり、3年生では、地域のお茶園やスーパーマーケットの見学、5年生では、国の重要文化財に指定されている黄林閣（柳瀬荘）の見学等を行った。

（2）安全安心、潤いのある教育環境の整備

季節に応じた花の苗等を購入し、委員会の児童やボランティアと共に花いっぱいの花壇にすることができた。今年は特にPTAのボランティアの方が、花壇等の草取りや土壌改良をしてくださり、きれいな花壇を維持することができた。

大災害の時に、学区の広い本校では児童をどのように安全に避難させるか、どのように児童を安全に保護者へ引き渡すかを考えながら、万が一の大地震を想定し、引き渡し訓練を実施した。

（3）親子参加型授業について

各学年が親子参加型授業を実施した。PTAの学年委員が各担任の協力のもと計画を練り、指導者を招聘し、『学ぶ楽しさ』のある授業を実践した。1年生「食育」2年生「おなかの健康」3年生「健康な歯」4年生「誕生学」5年生「安全なインターネット」6年生「ライフプランニング」の授業等「親子ならではの」の授業が展開された。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

体験活動や地域学習を充実させることにより、地域全体で、心豊かな子供たちを育成しようとする意識の継続が図れた。

学校評価では、「楽しく学校へ通っている」「命を大切に」「授業を工夫し、意欲的に学習している」の項目で、おおよそ9割程度の肯定的な評価をいただいた。

地域に根ざした生き生きとした学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校は「すすんで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を学校教育目標に掲げ、「全教職員の持ち味と創意を活かして組織力・学校力を高め、子どもと保護者・地域の願いに応える特色ある教育の推進する」という学校経営方針のもと教育活動に取り組んでいる。そして、「さわやかに登校して、元気に活動し、笑顔で下校する学校」を目指す学校像として、以下具体的に取り組んできた。



「授業の様子」

2 具体的な活動の紹介

所沢市<ところん学力向上プロジェクト>の授業展開の確実な実施を推進し、「はじめに子どもありき」の視点に立った児童の育成を目指し、Chromebookを活用した活動の工夫に取り組んだ。3年目の研究では、東京学芸大学名誉教授平野朝久先生に加え、所沢市立山口小学校藤田恵子校長先生、所沢市教育委員会石田優紀指導主事にもご指導をいただき、教職員の指導力向上を図ることで、児童の学力向上につなげていった。



「歯科保健指導の様子」

また、安全で安心なきれいな学校づくりを目指し、校舎内外における“安全で美しい環境”の整備を進めた。今年度より児童の除草作業を「親子除草」に変更し2回実施した。加えて、保健室の布団を新調したり、歯科保健指導の実施をしたりすることで、衛生面における環境整備を進めることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・教員不足で厳しい体制の中でも、先生方が工夫して授業を進め、子供たちに指導していただいていることを強く感じます。
(学校評価より)
- ・子供たちが楽しそうに歯について、はみがきの大切さについて学べていたので本当によかったと思います。ありがとうございました。
(参加保護者アンケートより)
- ・「親子除草」は授業以外の子供たちの活動を見る良い機会となりました。
(参加保護者より)
- ・今後も「はじめに子どもありき～昨日より今日、今日より明日へ～」の基本理念のもと、学校・家庭・地域が一体となり、児童一人一人を確実に伸ばす教育活動を推進する。

(学校自己評価より)

地域に根ざした体験活動と読書活動を重視し 心豊かな児童の育成を目指します

1 特色ある学校づくり概要

本校は三富開発の地にあり、開校151年目を迎える学校である。三世代に渡って本校の卒業生という家庭も多く、学校の教育活動には協力的である。地域の方々の協力による農作物の収穫体験活動は本校の伝統的な特色である。

もう一つの特色として、読書活動の充実に取り組んでいる。今年度はところん学力向上プロジェクト事業の特別指定研究校として読解力の向上に取り組み、その中でも読書活動の充実を図った。

2 具体的な活動の紹介

＜地域に根ざした体験活動＞

本校の周辺にはいろいろな作物が栽培されている。トウモロコシ等の収穫体験を行ったり、地域の特産であるお茶の共同加工施設を見学させていただいたりしている。また、学校の隣の敷地をお借りして「富小ファーム」として様々な農作物を育てている。農場長は地域の農家の方で、トラクターや耕運機を使って整備していただいた中で、種まき、苗植え、収穫の体験をしている。

＜読書活動＞

昨年度から学校図書館のリニューアルを行い、低・高学年に分かれていた学校図書館を統合するとともに電子化による管理に移行した。これにより、休み時間には図書委員が積極的に貸出・返却の仕事を担うようになった。今年度は日課を見直して昼休みを長くしたことで、児童が学校図書館を利用しやすくなった。また、部分的にカーペットを敷いて、くつろいで読める環境にした。学校図書館は気軽に本を読むことができる場所という意識が児童に定着している。



「本の貸出をする図書委員」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

収穫体験後には、大根やサツマイモなど、大きな野菜を抱えながら持ち帰る児童の姿が見られる。晩御飯に使われておいしく食べたと嬉しそうに報告する児童が多い。地域の方々は富岡小の子どもたちのためならと協力してくださるし、児童は自分の住む富岡ではおいしい野菜が収穫されていることを誇らしく思うことができている。地域に根ざした体験ができる富岡小ならではの成果である。

読書活動では、学校図書館に積極的に行くだけでなく、机の中に本を入れておいて隙間の時間に読む児童も多い。学校評価の児童アンケートでは「本を進んで読んでいますか」に75%が肯定的な答えをする等、進んで読書をする意識が育っている。

「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を育成し、 子どもたちに「夢と希望」を育み、保護者・地域から信頼される学校

1 特色ある学校づくり概要

目指す学校像として掲げられている「誰の夢も大切にできる学校」を実現すべく、「夢」をキーワードとして全職員が一丸となって教育活動を実践している。また本年度は特別支援学級が立ち上がったことを受け「ユニバーサル教育元年」と位置付けて、だれひとりとして取り残されることのない教育の実践を具現化するため、研究を進めている。

2 具体的な活動の紹介

「誰の夢も大切にできる学校」の実現に向け、キャリア教育の観点から、本校児童がなりたい職業として挙げた「パティシエ」と「サッカー選手」を夢先生として招聘した。その道のプロから聞く話は新鮮で、子どもたちは夢の実現に向けてさらに意欲を高めた様子であった。また発達段階に応じて各学年で「夢」をテーマにした学年掲示板を作成し、年間を通して子どもたちの夢を後押しできる環境を整えた。低学年は「できるようになったこと」をカードに書いて掲示、高学年は将来の自分の姿をイメージして文章に表す活動から、いますべきことを明確にし、目標を立てることができた。



「夢先生」の授業の様子

また「特別支援教育の視点を生かした、わかりやすい授業の展開」を主題として学校課題研究を行った。「だれひとりとして取り残すことのない授業実践」をすることで、すべての児童に基礎学力を身につけさせることをねらいとした。外部から講師を招いて研修会を行い、研究授業を通して特別支援教育やユニバーサルの基本から学んだことは、本年を「ユニバーサル教育元年」と位置付けた本校にとって意義のある研修となった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

西富小学校では、温かな雰囲気のある風土の中で子どもたちが伸び伸びと成長している。地域は非常に協力的で約50名のボランティアが活発に活動していることも本校の特長のひとつである。そのような恵まれた環境の中で「夢をもち、だれひとりとして取り残すことのない教育」が実践されることは保護者だけでなく地域の願いでもある。「子どもたちが笑顔で挨拶をしてくれる」との声が地域から寄せられることは特色ある学校づくりの成果であろう。また学校評価においても、保護者が心の充実において特に高い評価をことも同様の理由が考えられる。次年度以降も本年度の成果をさらに発展させていきたい。

子どもが夢をいただく学校

— 子ども一人一人の心の中に「ふるさと中富」をつくります —

「ふるさと」とは、子供達の学びの出発点を象徴的に表す言葉です。

「自分には自分のよさがある。こんな大人になりたい。将来、こんな職業につきたい。」
子供が夢をいただく学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校の目指す学校像は、“全ての子供たちが自他を尊重し合い、互いに高め合い、「ふるさと中富」の次代の担い手を創る学校～「児童の心のエネルギー」を満たし、「明日もっと学びたい、もっと人と関わりたい、もっと汗を流したい」と思える勇気づけに満ちた誰一人取り残さない教育活動の推進～”である。

様々な活動の中にみられる、自他のよさを認め生かし合える姿を<かかわってキラリ>、能動的に学ぶ姿を<わかってキラリ>、粘り強く心身を鍛える姿を<汗を流してキラリ>として、それら一瞬の輝き<3つのキラリ>を見逃さずに、全校を挙げて特色ある学校づくりの実現を図っている。



「三富おろし」の合唱奏
6年生の演奏で1～5年生が合唱する。校内音楽会のクライマックス。

2 具体的な活動の紹介

三富開拓の歴史を学んだ児童（H16 卒業）が音楽担当と作成した本校独自の「三富おろし」という曲がある。これを毎年6年生が伝承し、校内音楽会等で演奏している。年度末には、6年生から5年生へと伝承される。楽譜は存在せず、実技指導、口伝で伝えている。6年生がカウントをとったり、手本を示したり、その中には称賛の言葉や叱咤激励等もあり、かかわる様子がキラリとする瞬間である。また、5年生は、上達を実感しながら、わかった自分がキラリと輝いていることも実感する瞬間でもある。

6年生を送る会で、5年生が演奏を初披露することで、6年生への感謝を伝える。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本校は三富新田開拓の地域にあり、屋上は三富新田の様子を見学できる場所になっている。市内だけでなく市外からも小学生が見学に来たり、地域の学習グループが見学に来たりして、三富地区、中富地区について学ぶと同時に、親しみを持っていただいている。

地域の方は大変協力的で、子供達のためにと力を貸していただけるため、多くの体験活動をしたり、ボランティアでの見守り活動をしていただいたりしている。

給食に食材のご提供をいただいている農家のお力添えで、低学年児童がサツマイモの苗植えから収穫までを体験する活動をしている。自分達が収穫した物が給食に使われ、心に残る活動になっている。

学校・家庭・地域は、よき理解者・支援者として 豊かな心で学び続ける児童を育てます

・主体的に学ぶ心 ・相手を思いやる心 ・たくましい心

1 特色ある学校づくり概要

学校経営の基本理念を「真の学び舎は子供が主役」とし、学校・家庭・地域が子供たちのよき理解者・支援者となることを目指して特色ある学校づくりを進めてきた。中でも子供たちの確かな学力の向上のために体験活動の充実や校内研修・研究等による教員の授業力向上に取り組んできた。また、開かれた学校づくりに向けて、PTA との連携や小手指中学校区学校運営協議会を推進した。



「学校農園で種まきをする子供たち」

2 具体的な活動の紹介

○確かな学力と豊かな心の育成

児童の確かな学力と豊かな心の育成を目指して、本事業を活用し、体験活動の更なる充実を図った。

第1学年では、小谷公園での秋探しをしたり、地域の方から昔遊びを教えていただいたりした。第2学年では北野天神社、小手指中学校等に協力いただき、町たんけんを実施することができた。第3学年では地域人材を活用したそろばんの授業、昔のくらし見学を実施した。第4学年では社会科見学で東秩父村へ行き、細川紙の紙すき体験を行った。第5・6学年では、警察OBによる情報モラル教室など学年の指導計画に沿った内容をゲストティーチャーに指導していただいた。

学校農園「緑のファーム」では、地域のボランティアの協力を得て、さつまいもやじゃがいも、へちま等の児童が学習で使用する農作物とともに、綿花やかぼちゃ、大根等の栽培も行った。このことから子供たちの学校農園への興味・関心を高めることができた。また、収穫した野菜を自校給食の食材として活用することで、学校食育にも繋げることができた。

○児童・教職員の安全・安心

毎月の安全点検をもとに学校施設を確認し、今年度は廊下のセンターラインの張替えやダストボックスのリニューアル等を行い、校内環境を整備した。

防災意識を高めるため、年4回の避難訓練に加え、保護者による引き取り訓練、防災無線による緊急地震速報訓練、Jアラート訓練を実施した。また訓練では、全校で統一した事前指導・事後指導を行うことにより、防災教育をさらに充実させることができた。

○地域連携・開かれた学校づくり

今年度は、運動会、授業参観・懇談会、音楽発表会、持久走大会、学校公開等を通して、保護者や地域（小手指中学校区学校運営協議会委員を含む）に学校を開くことができた。また、地域行事に校庭や体育館を貸し出したことは、子供や保護者を地域とつなげるよい機会をつくることができた。また、学校は、民生児童委員や学校運営協議会委員と情報を共有し、豊かな心で学び続ける子供たちの育成に努めることもできた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

子供たちの体験は、聞いたり、読んだりした知識をより確かなものにさせた。まさに「百聞は一見にしかず」であった。学校行事に参加した保護者や地域の方からも、「いつも（仕事で）学校行事に参加できない父が子供の様子を見ることができ、ありがたい。」「子供たちの頑張っている様子を見ることができてよかった。」という声をいただくなど「特色ある学校づくり」を推進することができた実感することができた。

今後も、家庭・地域とともに、小手指小学校の特色をさらに生かした活動となるよう教育計画を立て、一人一人の子供に個別最適な学びや体験活動を充実させていきたい。

「丘の学び舎」やさしく、かしこく、元気な子の育成 —瞳かがやく 笑顔あふれる 楽しい学校—

- 全教職員の創意を生かし、組織的・協働的に魅力ある共同活動を展開する。

- 1 確かな学力の定着「知」
- 2 豊かな心の育成「徳」
- 3 健やかな体の育成「体」
- 4 生徒指導・教育相談・特別支援教育の推進・充実
- 5 安全・安心な学校
- 6 学校・家庭・地域の連携
- 7 信頼される教職員「教職員事故は0にできます！」

1 特色ある学校づくり概要

- ① 今年度は校内研究として、上小で育てたい非認知能力と行動指標について（仮称）（所沢市教育委員会の事業に基づく授業づくり）を進めている。また、これまでの3年間の体育科研究の成果のまとめと継承していくことも念頭に置きながら、特に国語科と体育科で授業の充実を図ってきた。（校内研究と教材及び教室環境の充実）
- ② 特別支援教育の充実のために、時間割（教育課程やカリキュラム）と教室の使い方を再度見直した。
- ③ 防災教育の徹底を図り、避難訓練の内容を見直した。

2 具体的な活動の紹介

- ① 校内研究を所沢市学校教育課から指導者を招き、非認知能力の育成について研修を行った。その後、低中高学年のブロックごとに研究授業を行い、行動指標を明確にするために指導案の書き方を統一し、児童に身につけさせたい力を細分化する等研究を進めてきた。また、体育科については、初任者等への指導方法の師範や上っ子体操の周知、体力テスト結果の周知、掲示物の効果的な活用等を通して、教職員全員が同じ知識をもって授業をすることができている。
- ② 知的障害と自閉・情緒学級でのそれぞれの取組を学習内容によって分けた。児童の机に隣接させるカラーボックスや残り時間が視覚で確認できる時計を購入することができた。
- ③ コミュニティスクールの活動と連携しながら、引き取り訓練の様子を地域の方に見ていただいたり、防災に役立つ物品の購入リスト（児童用の非常食、水、ガラスに貼るフィルム等）を考えたりすることができた。



3 成果及び子供・保護者・地域の声

(1) 成果

校内研究において、上っ子パワーと題して児童に身につけさせたい非認知能力を全教職員で共有することができた。今後は、教科に限らずどの場面でどんな仕掛けが児童の能力を引き出すのに有効だったかの検証を重ね、学校教育目標の具現化に取り組む。また、環境を整え生活リズムが安定したことで、特別支援学級に在籍する児童や配慮を要する児童等にとっても一日の流れがわかり、見通しをもって過ごすことができるようになってきている。

(2) 子供・保護者・地域の声等

図書サポーターの方々からは、子供たちの喜ぶ様子が嬉しいという意見や朝の子供たちの様子を見ることができて楽しいといった感想が多く聞かれた。引き渡し訓練を参観くださった地域の方は、実態に沿った訓練にするための課題が見つけられそうだと学校と一緒に考えていただける意欲を伝えてくださった。

「き」れいな学校「た」のしい学校「の」びゆく学校

1 特色ある学校づくり概要

特色ある学校づくり構想

「き」れいな学校

清潔で明るい校舎、規則正しい生活、落ち着いた学習環境

「た」のしい学校

仲良く生活、元気に活動、真剣に学習、運動

「の」びゆく学校

豊かな心、確かな学力、体力、自律の力、広がる夢



「活動の様子 ねこ隊による読み聞かせ」

具体的な方策【コミュニティスクールの強みを生かした教育活動】

○地域の教材化と学習活動の連携 ○学習ボランティア・コミュニティスクールにおける人財活用

○小中連携によるコミュニティスクールにおける教職員研修の充実

2 具体的な活動の紹介

○地域の教材化と学習活動の連携

1年 トウモロコシの栽培と収穫、調理、実食 2年 サツマイモの栽培と収穫、調理、実食
3年 蚕の飼育 地口絵奉納 4年 北野天神の木の写生 花育 5年 田んぼ作りと稲栽培、
収穫と炊飯 わら細工体験 5組 大根の栽培と収穫、収穫した物の販売学習への活用

○学習ボランティア・コミュニティスクールにおける人財活用

全校 PTAやねこの手貸し隊による 花育、除草、落ち葉掃き、体育館清掃、

学年 読み聞かせ ミシン学習 花育 調理実習 田んぼづくり わら細工体験 昔遊び 等

○小中連携によるコミュニティスクールにおける教職員研修の充実

- ① 全学級の授業公開と各校の教育活動の情報交換 (6月、北野小学校)
- ② 夏季休業中の生徒指導教育相談合同研修 (8月、北野中学校)
- ③ 小学校国語科授業研究会(市教委連携) (1月、北中小学校)

3 成果及び子供・保護者・地域の声等

(1) 生活科での児童の感想(地域の方の交流による体験学習を通して)

「畑の神様が、畑や野菜のことを何でも教えてくれるから、立派な野菜がとれてうれしい。」

(2) 保護者による学校評価

「子どもは、楽しく 学校に通っている。」

とてもそう思う 55%

そう思う 37%

あまり思わない 7%

全く思わない 1%

(3) 花育による学習環境の整備に対する地域の方の感想

「この数年で、北野小の花壇が花でいっぱいになり、子どもたちの心も豊かになりますよね。」

子供の笑顔を大切にする学校

— 「授業」「学校の決まり」「自分と友達」を大切にする学校づくりを推進します —

1 特色ある学校づくり概要

- ①総合的な学習や生活科を中心に、環境を生かした学習を進め、体験から学び、環境との共生を考える中で、豊かな心を育む教育活動を展開する。
- ②学力・体力の向上を目指し、学習環境の充実を図ると共に、職員の校内研修を充実させ、基礎基本を大切にし、子供たちが学びたくなる場を形成する。学ぶ姿勢（挨拶、姿勢、話の聞き方）の繰り返しの指導に取り組む。
- ③「できることを工夫」しながら、様々な教育資源を生かし、児童の体験や多様な教育活動の場を増やす。
- ④北中会（PTAに代わる組織）、保護者や地域の「北中小の子供を守る会」との緊密な連携をとり、安全で安心な学校づくりを推進する。



「書きぞめ講師による授業風景」

2 具体的な活動の紹介

- ①総合的な学習、生活科において、児童に多くの教育的機会を与えるために、教材（生活科：大根種、総合：じゃがいも）などを購入し、学習環境の充実を図っている。
- ②個に応じた指導の充実のために、書きぞめの指導者を招聘し、一人一人に丁寧に指導を行うなど、円滑に学習活動ができるようにしている。
- ③今年度は、運動会やたてわり遠足などの行事を通して、異学年交流を図り、相手を思いやる心や助け合う気持ちなど豊かな心の育成を図った。行事に必要な教材等を購入して、できることを工夫しながら活動を進めている。
- ④学校農園の活性化を図るため、環境主任が中心となり植物の栽培に取り組んでいる。肥料を購入し、肥えた土づくりに取り組んでいる。また、環境整備のための耕運機や草刈り機の燃料も購入している。
- ⑤例年実施している栽培した大根を地域の方へ配り、感謝の気持ちを伝え、地域の方と信頼関係を築いている。
- ⑥校内研修で国語の授業研究に指導者を招聘して授業の「見通し」「ふりかえり」に力を入れて取り組み、職員研修を充実させた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

特色ある学校づくり支援事業のおかげで、時期や学習活動に応じて必要なものを速やかに用意することができ、充実した教育活動を進めることができた。特に、今年度も書きぞめ講師を招聘し、一人一人の字の上達につなげることができた。

また、子供や保護者、地域にとって安全で安心な学校づくりを進めることができた。登下校の見守り隊をして頂いている地域の方々からも「子供たちから元気をもらっています」とのうれしい言葉も頂いている。

「人のために 教職員も 笑顔で 尊敬し合い（愛）
共に学び合い（愛）感謝し合う（愛） 学校」

1 特色ある学校づくり概要

○ 昨年度までの山口小学校の学習の進め方「山小スタンダード」を継承し、さらに発展させていくために、今年度は、「ところん学力向上プロジェクト」特別研究指定校として、特別活動を核に研究を進めていく。

○ 地域の教育力（人材・施設）を総合的な学習の時間等に活かし、教育活動を推進し、児童の創造力・判断力・表現力を養い、「生きる力」を育成する。

○ 校内員会での情報交換を密にし、全教職員で共通理解を図り共通行動のもと、一人一人の児童のニーズに応じた教育を行う。（校内教育支援センターの設置）



山口包括支援センターより
4年生総合「認知症体験学習」

2 具体的な活動の紹介

○ 年度当初の校内研修では、全教職員による模擬学級会を行い、どの学級も同じように話し合い活動ができるよう、授業の流れについての共通理解を図った。今年度は「非認知能力」に視点を当て各教科への波及的効果をねらって研究を進めている。また、東京学芸大学名誉教授平野朝久先生による日々の授業へのご指導をいただき教職員一人一人の教育力向上を進めてきた。夏季校内研修では、平野先生の理念である「はじめに子どもありき」について講義及び指導をいただき教職員の資質向上に資する取り組みも行ってきた。1月23日の発表により他校の先生方から多くご意見をいただいた。

○ 委員会活動では、季節に合わせた植物を育て、校内の環境整備を行ってきた。1月には図書ボランティアの方より地域にまつわる話（狭山湖に沈んでしまった村があるという歴史的背景）を大型紙芝居にして3年、6年の児童に伝えてもらった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

【成果】

- ・ 全クラスが、公開授業を行い自身の授業の振り返りをする事ができた。「Aigrow」や「WebQU」等の調査ツールを活用し、児童の非認知能力を把握し指導に生かす事ができた。

【子どもの声】

- ・ 学級会で自分の考えを相手に伝えることができました。
- ・ 学級会で自分たちのクラスをよりよくするためにみんなが考えたことがたくさんできたので良かったです。
- ・ 友だちの意見について深く考えることができた。相手に自分の考えを分かってもらえました。

地域の香りを大切にし、地域と共にある

「特色ある学校づくり」を推進します

1 特色ある学校づくり概要

- (1) 地域の人々や自然と関わりを持ち子ども達一人一人が「わかった」「できた」「おもしろい」を実感し、生きる力を育む教育活動を実践している。
- (2) 保護者、地域、教職員が子ども達のために、お互いに協力、連携して教育環境を整え、大人も子どもも誇りを持てる学校づくりを実現する。



「1年生チューリップ苗植栽」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 卒業式や入学式に向けた、パンジーやチューリップの植栽・栽培活動（1年生）
- (2) 大根やサツマイモの植栽・栽培活動、収穫したサツマイモを使用した焼き芋大会（2年生）
- (3) 地域の伝統芸能について体験を通して学ぶ（3年生）
- (4) 車椅子、アイマスク等様々な体験活動を取り入れた福祉体験（4年生）
- (5) 実際に育てた稲を使用した米作り体験活動（5年生）
- (6) 環境ボランティアと連携した、花壇の整備、除草作業（6年生・全学年）

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<成果>

- ・4年生福祉体験では指導者を招聘し、さまざまな人々と関わ合う中で学習を行い、理解を深めることができた。

<児童の声>

- ・米作り体験では、常に一定量の水を保たなければいけないので、調整するのが難しかったです。

<保護者の声>

- ・先生方の丁寧なご指導が、大変ありがたいです。その中で、いろいろな子と関わり合い、声を掛け合うことで、お互いに学んでいるようです。

<地域の声>

- ・登下校時、子ども達の元気な姿に励まされています。さらに元気な挨拶があるとうれしいです。



「3年生総合的な学習の時間」

「おはよう」から「さようなら」まで

安心して学べる元気な学校

— 一人一人の「今」を「未来」を大切にする教育を推進します —

【Chance】みんなの今が大切にされ、明日への希望に繋がる教育

【Challenge】挑戦し続ける力、共に協力し乗り越えていく力を育てる教育

【Change】一人一人が確かな伸びを実感でき、なりたい自分に一步步近づく教育

【Connect】ゆるやかなつながりを大切にする教育

1 特色ある学校づくり概要

本校の、学校教育目標である「おはようからさようならまで、安心して学べる元気な学校」を実現するべく、Chance, Challenge, Change, Connect の4つのCを中心に教育活動を進めてきた。

今年度は、「ところん学力向上プロジェクト事業」基礎研究校として、認知能力及び非認知能力の育成に焦点をあてながら、研究に取り組んできた。

また、昨年度より始まったコミュニティスクール、充実したPTA活動、それら学校の教育活動全体を保護者・地域に広めるため学校ホームページの充実に努めた。

これら教育活動全体を通して、子供たちの4つのCを学校全体で支える学校づくりを推進した。



「全国タイピングコンクール」
入賞の横断幕

2 具体的な活動の紹介

校内研究では、昨年度、一昨年度とICTの効果的な活用、STEAM教育についての研究を生かしつつ、再度授業に立ち戻り、国語と算数を中心に研究を進めてきた。その中で、椿峰小学校が目指す授業「椿小スタンダード」と「椿小エキスパート」を全教職員で確認実践することができた。非認知能力の育成に向けても、全校で取り組む「椿小大作戦」、委員会の児童がプロデュースする企画「椿プロ」等様々な取り組みを行った。また、3年前より、全校で取り組んでいる、毎週金曜日のタイピングチャレンジの成果もあり、児童のICT活用能力も継続して伸びている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

一番の成果は、授業でも授業外でも児童の活躍の場(Chance・Challenge)が増えたことである。児童が中心となり企画した取り組みで学校が活気付いたり、個人のタイピング文字数の伸びも見られたり、学校や自分自身が変わった(Change)ことを実感していた。それら取り組みを日々、学校ホームページで発信することで、保護者や地域の方から学校の教育活動に対して好意的なご意見が数多く寄せられた。

家庭・地域の教育力を生かし、子どもたち一人一人の よさを伸ばす学校づくりを推進します

1 特色ある学校づくり概要

本校は明治6年に宝玉院を仮校舎として開校した歴史のある学校で、周囲には名産の茶畑が広がるなど、豊かな自然に恵まれた地域である。親や祖父母が本校の卒業生という家庭も多く、地域の方が本校の教育活動にも大変協力的である。「みんなやさしく かがやいて じょうぶな体 まじめな子」という学校教育目標のもと、家庭や地域とのつながりの深さを生かしながら、信頼される学校づくりを進めている。



「糎谷八幡湿地での田植え」

2 具体的な活動の紹介

本校の学区内にある糎谷八幡湿地は、所沢市内に残る数少ない田圃である。本年度も田植え・稲刈り体験をすることができた。地域の方が多く集まって田植えや稲刈りの作業を協力して行うという体験をすることで、地域の自然の恵みのありがたさや、収穫の喜びを実感することができ、貴重な体験となった。12月1日（日）には、収穫した米を使用した「餅つき」が、12月15日（日）には八幡湿地での落ち葉掃きが行われた。稲刈りをした5年生だけでなく、来年の田植え・稲刈りを楽しみにしている4年生も参加するなど、地域の行事に親子で積極的に参加する児童も多い。

学校の敷地内にある「むくろじ農園」では、ボランティアの「むくろじ農園協力隊」の方々の支援を受けて、児童が多くの作物を栽培、収穫している。これらを一部給食で使用し、収穫の喜びを全校で共有した。また、「総合的な学習の時間」に地域特産のお茶について学習し、近隣の茶畑で茶摘み体験をさせていただくなど、実際の体験をして学習を深めることができ、自ら積極的に調べる児童の姿が見られた。



「むくろじ農園」芋掘り体験

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の心配もなく校外での学校教育活動を進めることができた。昨年以上に地域の方のご理解とご協力を得て、三ヶ島の恵まれた自然の中で子どもたちが体験活動を行うことができた。また、地域の方からは、子どもたちと関わることを喜ぶ声も多く聞かれた。このような声をもとに、教職員は学校が地域に支えられていることを改めて自覚し、今後も保護者や地域と連携を深め、一体となって教育活動を進めていく。

「一人一人が主人公」

豊かな心とやる気・自信を育む 若狭小学校

1 特色ある学校づくり概要

子供たちにとって居心地がよく、誰もが認められていると感じられる「子供たちによりよく生きる力を育む」ことを教育活動の中心とし、心身のたくましさ、未来を拓く知恵、ふるさと所沢を愛する心の三つの宝を掘り起こし、すべての子供に未来へはばたかせる力を育てるという自覚と誇りをもって子供に「未来を生きる力を育む学校」づくりを目指してきた。全ての教育活動の中で、一人一人を大切にし、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけさせるよう、特色ある学校づくりを推進した。

① 未来を生きる力を育む授業づくり

・授業で実践 学力向上、体力向上、生徒指導、児童理解

② 一人一人を大切にする教育環境づくり

・「どうしたの」からはじまる、自己指導能力を育む生徒指導の推進

③ たくましい子どもを育てる、安心・安全な学校づくり

・「いじめ防止基本方針」の理解と方針に沿った実践 ・教師がお手本、明るいいあいさつ、届く声かけ

④ 人とのつながりを大切にする学校づくり

・目指す児童像の共有と連携 ・地域の力を最大限活用した教育活動の充実

2 具体的な活動の紹介

○家庭・地域と一体となって子供を育てる学校行事の環境整備

多くの保護者や地域と共に安全に、意欲的に合同環境整備を行い、校庭及び体育館を使用しやすくした。そのおかげで、子どもたちが、安全に運動等を行えるようになった。

○たくましい子どもを育てる、安心・安全な学校づくり

プール周辺の除草作業やプールの金網に目隠しフェンスを設置し、授業が安心して受けられる環境整備を行った。



「合同環境整備の様子」



「プール周辺の様子」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○校庭の水はけがよくなり、すぐに校庭が使用できるようになってありがたかった。

○プール周辺がきれいに整い、子供たちが気持ちよくプール学習に取り組んでいた。

すべては子供たち一人一人のために

— 子供たちの夢の実現と健やかな成長のために、最善を尽くす学校 —

「林小学校プラットホーム（基盤）」でわかった！できた！のある授業を実践し、学ぶ喜び、できた喜びを味わわせ、将来「よい（良・善・佳・好）人」となる学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

茶畑に囲まれた農村地域である林地区と、狭山ヶ丘駅に近い住宅や借家が並ぶ地域にある本校には、素直な心と明るい性格の児童の挨拶の声が校庭に響いている。

また、児童は何事に対しても一生懸命に取り組もうとする姿勢が多く見られる。

本校の喫緊の課題は、「学力向上」である。日々の授業の中で「わかった！できた！」のある授業実践を積み重ね、「わかるようになる。できるようになる。」児童の育成を目指した。

2 具体的な活動の紹介

児童が安心安全、かつ、楽しく学習することができるよう教育課程の見直しを行い、行事も行ってきた。

まず、学校公開を実施したり、ゲストティーチャー（写真は5年生国語の授業・フジテレビのアナウンサー）を招いたりして、学校を開くよう心がけるだけでなく、「よい人のモデル」を子どもたちに示すことができた。子どもたちは、落ち着いて行動し、学習に専念した。各支援員の力も大きく、登校に不安になる児童の心に寄り添い、学年経営・学級経営を助けてくれた。



「ゲストティーチャー」5年生国語の授業

そして、徐々に各教科で必要な物品の申し出が、各主任から伝わるようになった。運動会や縦割り班活動で必要なものを購入し、人と人との関わりを味わい「よい人」になるための支援をしてきた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

児童は運動会、音楽発表会（右写真）、学校まつりを通して、「うまくできることができた。」「来年は6年生のようなことをしてみたい。」と達成感を得られることができた。また、保護者からは「行事を実施していただき、ありがたい。」とあった。今後も児童が夢を持つことができるような教育活動を進めていきたい。



「音楽発表会」

元気いっぱい 花いっぱい 笑顔あふれる みんなの宮前小学校

1 特色ある学校づくり概要

【みんなの宮前小学校】の実現のために、宣言文の三つの視点【元気いっぱい、花いっぱい、笑顔あふれる】で、特色ある学校づくりを推進してきた。

(1) 視点1【元気いっぱい】

安心して活動できるようにする

活力ある学習活動ができるようにする

(2) 視点2【花いっぱい】

体験活動を通じて心を育てる

地域と連携して安全で美しい教育環境を整備する

(3) 視点3【笑顔あふれる】

子供たち一人一人のよさを伸ばす

支え合う集団をつくる

夢や目標に向けて努力できる



「トイレのカーテン」



「整備された花壇」

2 具体的な活動の紹介

(1) 学校環境の整備

子供たちが、安心して学校生活を送れるように、学校環境を見直し、必要な修正をした。その一つが、トイレの目隠しである。管理がしやすいように、ドア等が設置されない構造であったが、児童の実態・時代の変化を鑑み、カーテンを設置し、児童が安心できる環境に整備しなおした。

(2) 福祉学習の充実

指導者を招聘し点字体験を行った。お礼の手紙を書き、学びへの感謝の気持ちを伝えた。また、国立リハビリセンターで、車いす体験、アイマスク体験等を行い、体験を通じて、障がいに対する児童の認識の変容が見られ、障がいのある人と共に生きる社会の実現への意識が高まった。

(3) ボランティアとの連携

本校では、花や環境整備を行う道具を購入している。ほぼ毎週、花壇の整備をしてもらい、花がいつもいっぱいの宮前小学校が実現されている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「元気いっぱい」で「笑顔あふれる」姿を多く見せてくれた。1年を通して、花壇から花が消えることない「花いっぱい」の学校であった。今後も地域との連携を図りながら、やさしい子供たちのあふれる「みんなの宮前小学校」を実現していく。

さわやかな挨拶 心に響く合唱 地域に根ざす学校

— 所中三本柱 —

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標「自立・共生・貢献」、教育理念「はじめに子どもありき」のもと、「能動的な学習者としての子ども観」に立った授業を日々実践している。特に、所中三本柱「挨拶・合唱・ボランティア活動」を大切に、生徒の良さや可能性を伸ばす教育活動を推進している。また、学校・家庭・地域が一体となり、各小学校と連携を図りながら（「所澤学校」）、子どもの主体的な学びを実現している。今後も、特色ある学校づくりを通して、家族・地域に誇れる学校を目指していく。



「合唱祭 所沢市民文化センター ミューズ」

2 具体的な活動の紹介

- (1) **さわやかな挨拶**・・・今年度も、隔月第1金曜日に「地域ぐるみのあいさつ運動」を位置付け、所沢小学校・明峰小学校にてあいさつ運動を実施した。子どもたちにとっても、卒業した母校で、中学生としての姿を見せることができ、意欲的に参加することができた。活動を通して、進んであいさつする意識の醸成を図ることができた。
- (2) **心に響く合唱**・・・所沢市民文化センターミューズで合唱コンクールを開催した。コロナ禍以降初めて、200名を超える学年生徒全員がステージに上がり、学年全体での合唱も実施することができた。素晴らしい歌声や演奏がミューズに響き渡り大成功に終えることができた。
- (3) **地域に根ざす学校**
 - ① 地域の教育力の活用・・・職業講演会では、所沢市に関わりのある7つの企業から講師を招聘し講演会を行った。また、地域における職場体験（55事業所）も実施することができた。
 - ② 学校から地域へ・・・総合的な学習の時間では、「ふるさと所沢」をテーマに、各学級で探究活動を実施した。地域への取材を行う等、自ら地域に出向くことで、学びを深めることができた。地域ボランティア活動（地域清掃、ところざわまつり、各町内会行事等の活動等）も、コロナ禍以前のように活発に実施することができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの主体的な学びを実現することができた。今後も連携を図りながら、工夫を凝らした活動を考え、ふるさと所沢を大切にする生徒の育成を図ってきたい。「子どもたちのボランティア参加で、地域が活性化して嬉しい。」などの声をいただいた。

そこにいる皆を主役に

「誰もが安心して過ごせる学校」を創ります

1 特色ある学校づくり概要

本校における特色ある学校づくりは、学校教育目標を具現化するための方策として、学校の主役である生徒を中心に捉え、保護者や地域との連携を密にしながら、様々な教育活動をととして推進した。



体育祭 閉会式校歌全校合唱

2 具体的な活動の紹介

(1) 教職員が自分事としてとらえ、主体的に取り組む校内研修の実施

今年度の研修テーマを、「居心地のいい学校 安心安全な居場所のある学校 ～そのために私たちができることはなにか～」とした。教職員一人一人が主体的に学校課題をとらえ、「居心地のいい学校」づくりに向け、研修部中心に取り組んできた。日本で初めて設置されたウェルビーイング学部がある武蔵野大学から指導者を招聘し、研修を深めた。教科指導に限らず、校務全般において「居心地」をキーワードに自分事としてできることが何かを考え、実践をもとに学校力の向上に向けて尽力した。

(2) 美しく、安全、安心な学校環境づくり

保護者、保護者OBで組織している「ひまわりの種の会」をはじめ、学校環境の整備活動にお手伝いをいただいている。また、向陽中学校学校運営協議会もスタートし、「①不登校、②地域とのつながり」について、熟議を進めることができた。

(3) 学校行事の工夫

今年度も所沢市民文化センターミューズの大ホールで合唱コンクールを実施した。本校の合唱は伝統があり、生徒だけでなく学校に関わる人たちの期待は大きい。学校行事として、生徒の活躍や成長が分かるように活動を工夫している。美術部生徒による学校フェンスへの制作物の掲示、近隣の神社への巨大絵馬の奉納等、歌声だけでなく、潤いのある学校行事づくりを推進している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度、学校行事の中での運営場面はもちろん、行事の振り返りの中でも、実行委員の生徒の考えを次年度の実施に確実に反映させることで、生徒の達成感につなげている。その中で、生徒の取組や活動の成果についても、保護者をはじめ、地域の方からも直接、励ましのお手紙をいただくこともあった。今後も「居心地」をキーワードに、生徒が主役になる学校づくりを全教職員で推進していく。

『 はじめに子どもありき 』の理念のもと、
『 未来を切り拓く生徒の育成 』を目指し、
『 本気の笑顔を体験できる美原中学校 』を推進します

1 特色ある学校づくり概要

美原祭（合唱祭）・体育祭などの学校行事、校外学習・林間学校・修学旅行などの学年行事や、日々の教育活動を通じて生徒主体の取組を充実させ『 本気の笑顔を体験できる美原中学校 』の実現に迫った。また、「はじめに子どもありき」の理念を基に、『『関わるべきところと任せるところ』、『待つ』を意識した授業づくり』の研究に積極的に取り組んだ。「子どもとは、本来よくなりたい、できるようになりたいと願っている存在」と捉える子ども観について教職員で共通理解を図り、日々の授業や活動を通して「未来を切り拓く生徒の育成」の具現化を図った。



美原祭の様子

2 具体的な活動の紹介

『 子ども主体の教育 - はじめに子どもありき - 』をテーマに講師を招聘。教職員向けの研究授業や研修、講演会を複数回実施し、授業改善、教師の指導力の向上に向け取り組んだ。

『 学校だより・学校HP 』で、特色ある学校づくりの活動・成果等を伝えた。

美原祭・体育祭等を保護者に公開し、生徒の活動の様子を見ていただく機会を多く作った。

『開校 50 周年記念事業』の一環として、生徒会を中心に中庭の改修を進めた。また、保護者・地域の協力を得ながら校地内の整備なども行い、地域に貢献し社会の一員として参画・協働できる人づくりを目指した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価では、9割近い生徒が「主体的な学習態度が身についている」、「楽しく学校生活を送っている」、「学校行事を通して成長することができた」と回答した。また、保護者の方々からは、『『本気の笑顔を体験できる美原中学校』を具現化する取組が行われている』（8割）、「学校行事を通じて生徒は成長している」（9割）など、評価いただいた。また、地域の方々には、様々な機会を通じて学校に足をお運びいただき、美原中生徒の本気の笑顔を見ていただくことができた。地域にも配布している学校だよりは大変好評で、学校経営理念・方針に多くの共感の声をいただくことができた。

生徒会憲章を実現し 「未来を切り拓く生徒の育成」を目指します

1 特色ある学校づくり概要

「中央中学校の生徒は自分たちの理想とする学校づくりを目指す目標として、生徒会憲章を定める。」この生徒会憲章実現に向けて、生徒の主体的取組を支援し、自らに誇りを持たせ自己肯定感の醸成を図る。併せて、以下の「7つの凡事徹底」を推進し、しっかりとした生活習慣を身に付けさせる。

あいさつ 返事 時間を守る 清掃をしっかり行う
正しいことば遣い 正しい身だしなみ いたわりの対応



「落ち葉掃き・挨拶活動」

2 具体的な活動の紹介

(1) 生徒ボランティアによる落ち葉掃き・学校菜園の整備活動

ソフトボール部や囲碁将棋ボランティア部の生徒たちが、自主的に落ち葉掃きや挨拶活動を行った。学校の前を通行する地域の方々からも励ましの言葉をいただき、生徒たちの自己肯定感もさらに高まっている。また、生徒たちが学校菜園の整備に自主的に取り組んだ。参加した生徒たちは、自分たちが苦労して育てた野菜等を収穫することで、食物のありがたみや自然の雄大さなど、食育・環境教育について学ぶよい活動となった。特色ある学校づくり支援事業の予算から、整備費として充てさせていただいた。

(2) 除草作業・3年生による校内環境整備

学校行事や生徒が主体となる様々な活動について、その活動の意義・目的を意識しながら実施してきた。体育祭の前に、体育委員や各部活動が除草作業を実施し、生徒会憲章の中にある、自分たちの学校の学習環境を自分たちで改善しよりよい学校にしていく活動ができた。また、卒業を控えた3年生が、これまで使ってきた自分たちの校舎を清掃・整備する活動も行った。当日の運営をはじめ、呼びかけや片付け等は生徒たちが行った。きれいで美しい学校環境を維持する有意義な活動となった。

(3) 合唱コンクール(所沢市民文化センターミューズ)

特色ある学校づくり支援事業の予算を賃借費として充て、所沢市民文化センターミューズにおいて合唱コンクールを行った。実行委員やパートリーダーを中心に、生徒が主体となって練習を重ね、当日はミューズのステージ上で堂々と発表することができた。参観した保護者からも大きな賞賛の拍手が送られていた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価において以下の成果が確認できた。(肯定的評価の割合)

生徒		保護者	
自分には、よいところがあると思う	87.2%	生徒が学校へ行くのが楽しいと言っている	79.5%
身の回りや教室・廊下の美化に努めている	76.7%	校舎はきれいで、教育環境が整っている	96.5%
行事に協力し、集団への所属感を深めることができた	94.3%	学校行事が充実しており、生き生きと活動している	88.7%

本校は、「笑顔と活力にあふれ、

温もりと居場所がある学校」を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

「はじめに子どもありき」の基本理念のもと、安全・安心な学校づくりを進めている。

地域との連携については、定期的なHPの更新を行い、本校の教育活動を積極的に保護者・地域に発信している。小学校との連携については、中学校区内で定期的に連絡会を開催し、地域や各学校の課題を踏まえた連携を図っている。また、小学校高学年の児童とその保護者を招いた学校公開や、体験授業を実施した。特に以下4点を特色ある学校づくりの視点として、取り組んだ。

- ① 生徒にとって…「生き生きと学び、安心して通える学校」
- ② 教職員にとって…「互いの持ち味を大切にし、協働と感謝のある学校」
- ③ 保護者にとって…「子どもの成長が見え、信頼できる学校」
- ④ 地域にとって…「明るく開かれ、応援したくなる学校」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 合唱コンクール…10月にミューズを会場に開催した。800名を超える保護者や来賓が参観する中、「Brillante～皆で咲かせろ輝く歌声～」のスローガンにふさわしい発表会となった。実行委員の生徒が中心に運営を行い、美術部作成の看板が舞台を盛り上げた。



「合唱コンクール」

- (2) 体育祭…今年度より5月平日開催としたが、500を超える家庭が参観した。体育委員会をはじめとする生徒が準備や運営に力を発揮した。



「体育祭」

- (3) 校外学習（1・2年：川越、3年：京都・奈良）…3年生の修学旅行では、事前計画のもと、グループ行動に自主的に取り組んだ。
- (4) 部活動…PTAや愛校会の温かい支援を受け、多くの部が大会で活躍した。特に、合唱団（合唱部＋有志）は神奈川県横浜市で開催された関東大会に出場し、金賞を受賞した。音色や歌声を合わせた発表は、聴く人を魅了した。
- (5) 学校ホームページ…学校の教育活動を保護者や地域へ迅速且つ積極的に発信し、地域や家庭との連携及び啓発を促進した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・保護者の声…合唱コンクールや体育祭では、生徒が熱心に取り組んでいる様子を見て感動した。
- ・地域の声…吾妻地区ふれあいスポーツフェスティバル、地域の夏祭り等の行事では、生徒が積極的にボランティアに参加してくれ、小学生のよい手本となっており、地域の活性化につながっている。

地域と共に育つ学校づくり

— 自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中(がっちゅう)生徒 —

1 特色ある学校づくり概要

本校では、「清新で魅力ある東中学校づくり」を経営理念に据え、「自信と誇りを持ち、生きる力を身に付けた生徒」自ら学び、互いに高め合える生徒(知) 自己を見つめ、思いやる心を持ち、協力できる生徒(徳) 心身ともに健康で、進んで実行できる生徒(体)を目指す生徒像としている。

教育目標は「自立と貢献」であり、これを学校・家庭・地域で共有して、目指す生徒像の実現を目指している。協力的な地域の方々の厚意により、多くの教育活動が支えられ、協働体制も築けている。特色ある学校づくりを通して、「自信と誇りを持ち、未来にはばたく東中生徒を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進した。



「合唱コンクール」

2 具体的な活動の紹介

体育祭や合唱コンクール、校内除草作業などの学校行事では、学校、保護者、地域が一体となった教育活動を推進した。

合唱コンクールでは、所沢市民文化センターミューズの大ホールを利用して、生徒が生き生きと活躍できる場を提供して感動ある体験を実施し、自信と誇りを持たせることにつながった。

東川清掃・校内除草作業等のボランティア活動を生徒会主催で企画・運営し、PTA・後援会と連携して実施したことにより、生徒の道德心や奉仕の心を培った。

特別支援学級において、相互理解を深める交流及び共同学習を推進した。

落ち着いた学校生活を作り出すため、毎週月水金に全校一斉の朝読書を推進し、実施した。

TGS 構想に元づく一人一台端末の積極的な利活用を目指し、毎週木曜日にタイピング練習の時間を設定し、全校一斉に実施した。

基礎学力の定着を図るため、年3回の国数英の東中検定(基礎学力テスト)を実施した。

WEBQUを全校で年2回実施し、教員が生徒の状態を多角的に把握することに努めた。

「ところん学力向上プロジェクト」の特別指定研究校として、「非認知能力の育成」に視点を置き、客観的根拠(AiGrow 及び WEBQU を実施)を参考としながら研究を進めた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も地域と共に育つ学校づくりを運営することができた。「学校だより」や「学校ホームページ」を通して教育活動の様子を発信することで保護者、地域との連携をさらに進めた。また、学校公開日や学校行事には、毎回、多数の保護者や地域の方の来校があった。今後も、生徒や教職員が地域と共に活動を行うことで、生徒に活躍の場、学校と地域の方々との交流の機会を増やしていきたい。

地域の香りを大切にし

地域とともにある特色ある学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校では『地域の香りを大切にし、地域とともにある「特色ある学校づくり」』の推進を目指し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を持った生徒を育成するために、「所属感」「存在感」「一体感」「達成感」を味わわせ、潤いと笑顔と歌声のあふれる安松中を目指して教育活動を進めている。本年度の重点として、①「主体的・対話的で深い学び」を通した授業改善②心がホッとする学級・学年・学校づくりを柱としている。また校内研修テーマとして「生徒の考えを引き出す対話、発問の工夫」を掲げ、「特別の教科 道徳」の研修を中心として、心豊かな、思いやりのある生徒の育成を目指している。

2 具体的な活動の紹介

<学校生活>

- ・道徳の学校研究を柱として、「生徒が自分の考えを持ち、対話を通して自らの発信力を高めるための授業作り」を全教職員で目指した。学年ごとに指導者を招聘し、学年単位で研修を行った。
- ・教師の自主研修の機会充実と働き方改革を図るため、指導法や ICT を有効活用するための書籍等を整備し共有し、学校の教育力の向上に努めた。
- ・生徒の健やかな体の育成を目指し、運動するための環境整備に努めた。体育委員会の常時活動を見直し、ボールの貸し出しや体育館開放の改善を行い休み時間等、運動する生徒が増えた。
- ・校内美化に努め、掃除用具を随時購入し、生徒が毎日の清掃に積極的に取り組める環境を整えることができた。また、生垣の整備や樹木剪定を効果的に行い、校地内の安全確保に努めた。

<学校行事>

- ・音楽祭の練習では、各学級の合唱練習が充実を図るため、昨年度に引き続き、音響機器を整備した。
また、体育祭では、実行委員の生徒を前面に出し、生徒たちの力で作り上げることを意識させ取り組ませることで、達成感や自己有用感を得られるよう働きかけを行った。
- ・図書室の環境整備を図るとともに、図書委員会による読書の呼びかけ、読書コンクールの実施や日々の朝読書の効果もあり、読書に親しむ生徒が増えた。

<地域との活動>

- ・「ボランティアカード」を活用し、所沢市環境美化の日、地域の防災訓練や夏祭りボランティアなど様々な地域行事へ生徒の参加を促すことができた。



道徳授業



体育祭

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・豊かな心と思いやりのある生徒の育成を目指し、学校研究の柱として道徳の授業作りに力を入れた。生徒が自らの考えを持ち、対話する場面を意図的に設定することで、発信力や自己調整力を育むことができた。また、教師が学年集団で協働し授業作りに励み、授業力を向上させ、学校の教育力の向上につなげることができた。
- ・体育祭や合唱祭の行事では、たくさんの保護者や地域の方にご参観いただいた。保護者や地域の方々からは、「大変感動して涙が出た。」「学校行事の充実と生徒の頑張りに感謝します。などお褒めの言葉を多数いただいた。
- ・ホームページの学校ブログ等を定期的に更新することで、保護者や地域の皆様から、学校の様子がよく分かりありがたいとお言葉を頂いた。また、便りのペーパーレス化も好評であった。

「地域に根ざし 地域とともに歩む 安全安心な学校づくり」の推進

1 特色ある学校づくり概要

- 「地域に根ざし 地域とともに歩む 安全安心な学校づくり」の推進をした。そのために、
- ア 学力向上のための指導の充実
 - イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
 - ウ 柳中農園の活用
 - エ 地域と連携した学校行事の充実
 - オ 安全・安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実



10月17日（木）所沢ミューズ大ホールで合唱コンクールを行いました。

どのクラスも日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。

2 具体的な活動の紹介

- ア 学力向上のための指導の充実
埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査、所沢市ステップアップ調査の結果を活用するとともに、「伝える力の育成」をテーマにした学校研究に取り組み、大学教授の講演をもとに、全教師が研究授業を行い、指導力の向上を図った。
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
生徒・保護者・地域に本校の教育のねらいとその現状を広く周知するため、学校だより・各種たより等を配布した。また、通知やPTA活動について、学校ホームページやtetoruを通じて周知した。
- ウ 柳中農園の活用
約1000㎡の農園の一層の活用を図り、総合的な学習の時間に1学年1学期にはジャガイモの栽培、収穫、販売、3学年2、3学期には大根の栽培、収穫を行った。特別支援学級では、年間を通じて、ジャガイモや大根、サトイモの栽培を行い、販売学習を行った。
- エ 地域と連携した学校行事の充実
体育祭・合唱コンクール等の学校行事を、全校生徒および保護者で実施することができた。また、地域の事業所と連携し、2年生の職場体験学習を実施した。
- オ 安全・安心な学校づくり
学校の施設設備に関する安全点検活動は、年1回の総点検と定例点検を行い、教育環境の維持、充実を図った。学校運営協議会を立ち上げ、家庭・地域とのより一層の連携、協働を図った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

(1) 成果

体育祭や合唱コンクールを全校一斉に盛大に開催できた。学校運営協議会の立ち上げにより、今後さらに一層の家庭・地域との連携、協働が進んでいく。職場体験も復活し、地域事業所とともに地域の子どもを育てることができた。

(2) 子供・保護者・地域の声

初めての合唱コンクール、子供たちが練習を頑張っている様子を聞いていたので、とても楽しみでした。すばらしい会場で歌うことができ、どの学年も素敵な歌声で、聴いていて幸せな気持ちになりました。特に3年生は、想いが歌声に表れていて感動しました。

地域とともに歩み、自信と誇りある学校

「ふるさと とみおか」

学校は、家庭・地域のパートナー

「協働・共同」による連携を推進し地域とともにある学校を目指します

1 特色ある学校づくり概要

第52回松の木祭（合唱コンクール）を10月に行った。数年間、音楽の授業で歌うことが難しかった生徒たちが、ミューズのホールで歌声を響かせることができるかという不安もある中、各クラスの実行委員が曲選びから練習計画等を考え、生徒主体で運営できるように教員はサポート役に徹した。

制限なく多くの保護者に参観させることができた。参観した3年生の保護者の中には、歌声を聞いて感動したと声をかけてくれた方もいた。招待された地域の方も、中学生の力に感動していた。



「第52回松の木祭」

2 具体的な活動の紹介

（1）共に学び考える生徒の育成

生徒が「わかった」「できた」と感じられる授業を目指し、授業のどの場面で、どのような方法で、どんな手立てをとるのかを考え授業改善を進めた。また、1人1回以上の研究授業を行い、教科の枠を取りはらった上で授業を見合い、指導方法を模索した。学校運営協議会では、普段の授業を委員の方々に参観していただき、生徒の様子を見ていただく機会をもつことができた。

（2）豊かな感性と社会性を持つ生徒の育成

生徒の言葉で富中人権宣言を生徒総会で発表し、互いの人格や個性を尊重し合うことを確認し、平素からいじめのない温かい人間関係づくりに努めた。また、昨年度から立ち上がった特別支援学級の生徒が総合的な学習の時間に参加したり、給食を一緒に食べたりして交流を深めた。3年生は総合的な学習の時間で「LGBTQ」について、講師を招いて話を聞き、学びを深めた。

（3）活力あるたくましい生徒の育成

本校の特色である「ふれあいチャレンジ in 富岡」では、2年生生徒が農家9件と事業所15件で3日間職場体験を行った。地域の方の仕事への想いに触れながら、体験を通して「働く」という心構えを学ぶことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

保護者対象の学校評価では、「生徒の力が高まる授業をしている」の項目で「とても思う」「まあ思う」が69.6%となり、高い評価を得られなかったため、授業改善を継続して行っていく必要がある。1年生は、「誰かのためになにかをするボランティアをやりたい。」2年生は、「職場体験で、働くことの大変さを学べたまた、楽しいこともあると感じた。」などの声があった。今後も、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を続け、子どもを真ん中に置き、学力・豊かな心・たくましい身体をバランスよく育んでいく。

主体的にたくましく生きる生徒活動

— 地域と共に、きれいな学校・元気な学校づくり —

1 特色ある学校づくり概要

本校は「主体的にたくましく生きる生徒」を学校教育目標とし、その達成のために、生徒一人一人が活躍できる場や行事を設定し、個性の伸長を図るとともに奉仕の精神や地域の一員としての意識の育成に力を入れている。3大行事（体育祭、合唱祭、三送会）を中心に学校行事を生かして知徳体のバランスのとれた生徒を育成し、粘り強く最後まで頑張る「小手中魂」の伝統を継承し地域と共にきれいな学校・元気な学校づくりを目指している。



体育祭（開会式）

2 具体的な活動の紹介

（１）「生徒一人一人を大切にする授業の創造」

- ①「本時のねらい」の明示。『わかる授業は最大の生徒指導』に基づいた全教師の日々の授業の創造。充実感を味わえ、学習意欲の向上と自己肯定感を高められる授業の創造。ICTを活用した授業をおこなった。
- ②職員研修の充実、教科部会の研修
今年度は校内研修のテーマを新たに「認知能力と非認知能力のバランスの良い育成～一人ひとりが考えを出し合い、学びあう授業づくり～」とし、研究を行った。週１回の教科部会を中心に研究を深め、各教科で授業の充実を図った。

（２）小・中の９年間を見通した教育の推進

- ①生徒指導・教育相談・相談室の情報交換
- ②キャリアパスポートを活用した進路・キャリア教育
- ③美術科教員による小手指小・上新井小の授業、情報交換
- ④中学校の体験授業

（３）「主体的にたくましく生きる」を目指した学校行事

- ①１年校外学習（川越）、２年校外学習（東京）、３年修学旅行（京都・奈良）、８組合同遠足（稲荷山公園）に出かけ、計画、実施、反省を行い、それぞれ次につながる行事となった。
- ②体育祭：暑さ対策のために時期を１０月にずらし行われた。平日の開催となったが多くの保護者の参観があり、一生懸命に取り組んだ。
- ③合唱祭：昨年度はインフルエンザ流行のため、全クラスの参加とはならなかったが、今年度は久しぶりに全クラスそろってのミューズでの合唱祭となった。どのクラスも日ごろの練習の成果を発揮し、立派に発表することができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本年度行った学校評価保護者アンケートでは、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせた評価が、
「生徒は、体育祭・合唱祭に熱心に取り組んでいた」が９３％
「生徒は、校外学習や様々な学校行事を経験して少しずつ成長してきている」が９４％
「生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる」が７４％
等の評価をいただいた。学校生活において生徒は達成感や充実感を味わい、着実に成長し、保護者からも高い評価を得ている。

志を持ち、共に高め合う生徒の育成

— 「地域と共に成長する学校づくり」の推進 —

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学び、心身を鍛え、協力して働き、生きる力を伸ばす生徒」という学校教育目標の具現化のため、保護者や地域の方々の協力により、行事や体験活動を行い特色ある教育活動を展開している。地域の教育力をより生かし、地場産業のお茶を学ぶ茶道教室や職場体験等の数多くの体験的な学習を実施した。



「小手指まちづくりセンターでの職場体験」

2 具体的な活動の紹介

(1) 体験活動（総合的な学習の時間）

第一線で活躍する方々を講師に招き、1年生は「地域に学ぶ、働くということ」をテーマに茶道体験・地域を知る（産業・文化・自然・人）。2年生は「自然に学ぶ、学ぶということ」をテーマに自然体験学習、上級学校出前授業、進路学習。3年生は「古都に学ぶ・生きるということ」をテーマに世界遺産古都京都奈良を学ぶ・国際協力とSDGs（JICAの方々との交流点字・視覚障害・認知症サポーター養成講座）・進路選択決定の学習を進めた。

(2) 社会体験チャレンジ事業（職業インタビュー1年、職場体験・2年）

1年生は「職業インタビュー」として生徒が直接連絡してアポイントを取り、訪問させていただき見学や質問をさせていただいた。様々な業種の方と触れ合いながら、業務や職業観について学んだ。

2年生の「職場体験」は42事業所にご協力をいただき、貴重な体験を通して職業について学んだ

(3) 学校ファーム

特別支援学級では、季節に合った野菜を育て収穫し保護者への販売や調理実習を行っている。

(4) 行事（体育祭、合唱コンクール）

本校の行事は、地域や保護者の支援協力により実施されている。体育祭では当日の補助、合唱コンクールの保護者受付、毎年大勢の参観者による温かい声援に生徒たちは励まされ力一杯活動している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○成果：感染症対策が解除され時間が経つが、戻すべきこと、戻さなくてよいこと、変更した方がよいことを精査し、工夫しながら実施することができている。結果、保護者の学校アンケートにおいて94%の方から、体験活動でお子さんが成長していると評価をいただいた。

○保護者の声：お友達も沢山出来、部活や行事をととても楽しみに、学校に行っています。

○地域の声：保護者や関係機関と連携した教育活動が計画・実践され、子ども達の豊かな心が育まれています。

所沢市立山口中学校

豊かな教育活動を通して、「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を推進します
特に「『誰もが居場所のある』山口中」を推進していきます

1 特色ある学校づくり概要

本校では、学校教育目標に掲げる「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を目指し、様々な教育活動を通して「誰もが居場所のある山口中学校」を実現するため、次の5つの視点で学校づくりを推進した。

- ① 学力向上の取組：誰もがわかる授業の実践
- ② 心の育成の取組：心のエネルギープロジェクトの推進
- ③ 地域との連携：地域とのつながりの再構築
- ④ 家庭との連携：生徒・保護者との信頼関係を築くための適切な対応
- ⑤ 小中連携：中1ギャップの解消に向けた小学校との連携

今年度は、生徒の保護者地域との繋がり幅を回復する教育活動や学校行事の工夫を行い、生徒の様子を発信する

ことができた。学校、家庭、地域が協働し「誰もが居場所のある山口中」の達成に取り組んでいる。



「合唱祭」ミューズにて

2 具体的な活動の紹介

- (1) 生徒一人一人の実態に即した授業を工夫し、誰もがわかる授業の実践

今年度は、生徒用タブレットを積極的に活用した教育活動に取り組んだ。文部科学省委嘱の「デジタル授業教科書の効果・影響に関する実証研究事業」を受け、授業の質の向上に取り組んだ。ICTの活用のみならず、基礎学力の向上につなげることができた。

- (2) 心のエネルギーを蓄える3つの場の設定、6つの社会的能力を育成

「安心感を得られる場」「楽しい体験をできる場」「認められる体験をできる場」を年間指導計画に学校・学年行事として設定、企画・立案の段階で目標を意識して工夫し確実に実践することができた。

- (3) 地域とのつながりを再構築

「山口ふれあいウォーキング」、「夏祭り」、「荒幡富士清掃（年2回）」、「中氷川こども焼き芋大会」に生徒のボランティアを派遣することができた。地域の方々から生徒の活躍に対してお褒めの言葉をいただくとともに、地域との交流が深まる結果となった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・本年度の合唱祭は、ミューズできてとても良かったです。どのクラスの発表も素晴らしく、感激しました。次年度も続けてください。（保護者より）
- ・小学生ではできない荒幡富士の急な斜面の清掃も進んで行ってくれました。100名も超える生徒のボランティアを派遣してくださり、ありがとうございます。（地域の方より）

『小中連携・地域活動参加により、 自主自律の気風を育てる』

- 行事等、様々な体験活動を通じて、心豊かな生徒を育む。
- 地域活動に積極的に参加し、地域との絆大切にする生徒を育む。
- 環境美化や地域の体験を通して、環境を大切にする生徒を育む。

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「狭山丘陵の雑木林」「トトロの森」「菩提樹のたんぼ」「柳瀬川の源流」など歴史と文化に恵まれた地域環境を背景に『小中連携・地域活動参加により、自主自律の気風を育てる』という特色ある学校づくり宣言を掲げ、学校教育目標の『自主自律』①自ら学ぶ生徒 ②心豊かな生徒 ③言動に責任を持つ生徒 ④健康でたくましい生徒の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。今年度は、小中連携を今まで以上に意識して定期的な情報交換・共有、研修会への相互参加・協力などを推進した。

2 具体的な活動の紹介

今年度は、全ての学校行事を予定通り実施することができた。特に体育祭・合唱コンクールについては、保護者だけでなく来賓の方々をご招待し、子どもたちの活動や頑張りの様子を広く観覧いただくことができた。どちらの行事も『子どもの様子を見ることができ良かった』というお言葉を沢山いただき、子どもたちや学校の様子を多くの保護者や地域の方々に知っていただける機会となった。

地域活動については、毎月第2日曜日ボランティア活動として『柳瀬川の最上流をきれいにする会の清掃活動』及び『椿峰みどり・環境づくりの会の緑道清掃活動』に、多くの生徒が参加することができた。また、昨年度から復活した所沢地区更生保護女性会主催の『子ども焼きいも大会』・山口地区体育協会主催の『ふれあいウォーキング』・山口まちづくりセンター主催の『文化祭』など、地域行事への子どもたちの参加協力をとおして、地域の方々とふれあいの場・子どもたちの自立した活動する機会・貴重な体験学びの場となった。



「柳瀬川の最上流をきれいに
する会」清掃活動の様子

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

僕は地域清掃で柳瀬川と緑道の清掃をしていました。柳瀬川ボランティアで来てくれていた方が清掃中に昔の川はもっと汚れていたということを教えてくださいました。昔の川は浅いですが底が見えないほどに汚れていたそうです。今からは想像できません。10年以上続いている柳瀬川清掃は今まで沢山の人の努力によってこれほどまでに綺麗になったとわかりました。これからも柳瀬川清掃は続きますが、もっと綺麗な川になってほしいです。(参加生徒)

未来知を拓く三ヶ島中学校

～まなぶ ひらく つなぐ～

○目指す学校像

「安心して失敗できる学校」～心理的安全性があり、前向きな取組を支援する学校～

1 特色ある学校づくり概要

本校は「安心して失敗できる学校」～心理的安全性があり、前向きな取組を支援する学校～を目指す学校像とし具体的に

わかる喜びを実感できる授業を実践し「学びに向かう力を高める学校」

社会で生活するために必要な「考える力を伸ばす学校」

行事や学校活動全般を通じて「体験し経験から成長する学校」を達成するため

- 新たな不登校対策支援体制の構築
- 確かな学力の構築

を重点として教育活動を推進してきた。また、よりよい学校行事を精選し、合唱コンクール等の大きな行事を通して生徒たちの成長を促してきた。生徒が自ら気づき、学ぶ過程を大切に、体験活動やキャリア教育や福祉体の充実を図った。



合唱コンクール(所沢市民文化センター ミューズ大ホールにて)

2 具体的な活動の紹介

「学びに向かう力を高める学校」

今年度は「ところん学力向上プロジェクト」の研究発表に向かって学校全体で指導方法の改善に努めている。教職員が各教科の授業にICTを積極的に活用する場面を見出し、効果的に活用するとともに、生徒のchromebookの操作スキルを高めるタイピングの時間「M-1グランプリ」を開催し、より主体的に学びに向かう学習が展開できるようにした。また不登校生徒の学びの場として校内教育支援センター「はばたきルーム」を開設した。教育相談部を中心とし、生徒に関わる全ての教職員と連携して運営し、着実に継続的な登校と学力の補充につなげている。

「考え・表現する力を伸ばす学校」

今年度の校内研修の研究主題を「ICTを活用し、生徒の興味・関心を引き出す学びの創造」とし、「スクールタクト」を授業に活用し、全校で授業改善に取り組んだ。6月、12月と2回「学びに関する興味・関心アンケート」を実施した。調査の結果、生徒が授業において課題解決に向けて自分の考えを持ち、話し合うことができる生徒を増加させることができた。

「体験し経験から成長する学校」

よりよい学校行事の在り方を協議し、限られた時間の中で生徒が行事や体験活動を通じて自信や成就感を感じることができるよう内容の精選を図った。1年「校外学習」「職場体験」、2年「林間学校」、3年「修学旅行」、学校行事として「体育祭」「合唱コンクール」「三年生を送る会」を中心にすべての生徒が役割を担い、主体的に参加できた。また福祉体験やキャリア教育に講師を招聘し、実際に体験を伴った活動を取り入れることで、福祉に係る方々の思いを理解し、また就労意識の高揚を図ることができた。



「講師を招聘して行った福祉体験学習」

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

全学年の生徒に実施したアンケートの肯定的評価が、「学校に行くのは楽しい」では88.0%、「集団の場にふさわしい態度を取るようにしている」が94.1%、「あいさつや場合に応じた言葉遣いができる」が95.5%であった。また「チャイム着席など時間を守っている。」は97.5%と、生徒が自主・自立の力とともに社会性を着実に伸ばしている。

- 保護者の声(学校評価より)

授業の事、クラスの事、部活の事、先生が話した内容、出来事をよく覚えており、楽しいと話しています。

『夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する 生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり』

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進しています。生徒の生きる力をはぐくむために「思考力（考える力）」を土台とし、「自ら学ぶ生徒（学ぶ意欲）、心豊かな生徒（思いやる心）、たくましい生徒（継続する力）」を育成する教育活動を推進します。また、小中連携、家庭、地域との連携を深めながら、地域に根差した教育活動を展開していきます。

2 具体的な活動の紹介

①教科指導を要に全教育活動を通して「学ぶ意欲」を育成する。

昨年度に引き続き、所沢市民文化センター「ミューズ」にて合唱コンクールを開催することができた。音楽、特別活動を通じて、生徒の意欲を高めることができた。また、合唱コンクール実行委員会を中心として練習、準備を行い、生徒の自主性を高めることができた。参観した学校運営協議会委員、保護者の方々にも好評であった。



（令和6年度合唱コンクール）

②道徳の時間を要に全教育活動を通して「思いやる心」を育成する。

昨年に続き、道徳の時間を学校で統一した。担当ローテーションや教材研究を深めることにより、道徳の授業の質を高めることができた。

③小学校や地域との連携を深め、地域に根ざした教育を推進する。

本年度は、交通安全については、学校運営協議会でのご意見等を参考に登下校についての安全を図ることができた。本校では交通安産の観点から、宮前小の児童が中学校の校地内を通り、中学生が小学校の校地内を通る交流登校を実施している。小中の連携を深めるだけでなく、「あいさつの輪」の広がりも見られた。体験学習は地域の協力を得て、地域の夏祭り2か所で「太鼓の奏者」、「放送アナウンス」のボランティア活動を通して行なうことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

【道徳の授業について 1年生徒】

個人の意見を聞きながら授業のポイントや考えるべきことにしっかり導いてくれるので 授業の意図を理解しやすくて助かっています。

【学校評価（合唱コンクールについて）3年保護者】

合唱コンクールは素晴らしかったです。子ども達の中で伝統として自然に受け継がれているのだと思いました。と同時に子ども達を陰で見守り、支えてくださっている先生方に感謝しています。

「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」

を目指します

1 特色ある学校づくり概要

本園の教育目標は「元気な子」「優しい子」「頑張る子」です。目標達成のために実体験を大切にし、心豊かに生きる力の基礎を育てる幼稚園づくりを図っています。

- ・ 幼児の心身の調和的な発達を育成します。
 - ・ 家庭の教育力を高めていきます。
 - ・ 家庭や地域の方々に信頼される幼稚園づくりを推進します。
- ※荒幡地区の自然に恵まれた教育環境や地域の人材を幼稚園教育に生かし、家庭との連携を図りながら「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」を目指します。



『なつまつり』 荒幡お囃子連



『ふれあい運動会』 みんなで たまいれ

2 具体的な活動の紹介

- ・ 幼稚園最後の1年になり、園児が少ないため、今年度は、卒園生、卒園生保護者にも参加していただき、『なつまつり』や『ふれあい運動会』を行いました。たくさんの方々に参加いただき、また、多くの卒園生（中学生、高校生、大学生、社会人）に積極的にボランティアとして力を発揮していただくことができ、幼稚園が笑顔いっぱいになりました。卒園生、地域の方々に協力いただき、よい経験ができました。
- ・ いきものふれあいの里センター、吾妻図書館、エコクラブ等の教育力を活用し、近隣の保育園もお誘いし、「森の図書館」を荒幡富士で行いました。荒幡の自然の中、思い思いに絵本を読んでいただいたり、大型絵本の読み聞かせをいていただいたりし、楽しい時間を過ごしました。
- ・ サポートスタッフさんによる絵本の読み聞かせも、日々交流している近隣の保育園をお誘いし、継続して行いました。また、図書室の絵本の貸出を毎週行い、家庭でも親子で絵本に親しめるようにしました。このような活動を通し絵本への興味関心が深まりました。
- ・ 地域の方の畑でのいもほり体験をさせていただき、親子で土に触れながら、さつまいもを掘り、大きさや形の違い、掘ったいもを数えるなど、実体験を通して学びました。
- ・ 卒園児保護者のアンサンブルドレミさん・みんなでドレミさんに音楽会（合唱、演奏会、ワークショップ）をしていただき、近隣の保育園児と一緒に音楽に親しみました。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・ 今年度は、日々交流させていただいている近隣の保育園や卒園生等、たくさんの方々に支えていただき、幼稚園最後の1年も『みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園』になりました。

